令和3年9月

中札内村議会定例会会議録

令和3年9月17日（金曜日）

◎出席議員（8名）

1番	木村優子君	2番	中西千尋君
3番	黒田和弘君	4番	大和田彰子君
5番	北嶋信昭君	6番	船田幸一君
7番	宮部修一君	8番	中井康雄君

◎欠席議員（0名）

◎地方自治法第121条の規定による説明のための出席者

中札内村長 森田匡彦君 教育長 上田禎子君
代表監査委員 木村誠君

◎中札内村長の委任を受けて説明のため出席した者

副村長	山崎恵司君	総務課長	川尻年和君
住民課長	高島啓至君	福祉課長	高桑佐登美君
産業課長	尾野悟里君	施設課長	成沢雄治君
総務課 参事	山澤康宏君		

◎教育長の委任を受けて出席した者

教育次長 阿部雅行君

◎農業委員会会長の委任を受けて出席した者

事務局長 中道真也君

◎職務のため出席した議会事務局職員

議会事務局長 平澤悟君 書記 柴田翔太郎君

◎議事日程

日程第1		議会運営委員会の報告
日程第2		閉会中の所管事務調査報告
日程第3	請願第4号 (委員会報告)	義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書の採択を求める請願
日程第4	意見書案第7号	義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書
日程第5	報告第4号	継続費の継続年度終了による精算について
日程第6	議案第60号	令和3年度中札内村一般会計補正予算について
日程第7		一般質問

◎開会宣告

- 議長（中井康雄君） ただいまの出席議員数は8人です。
定足数に達しておりますので、ただいまから令和3年9月中札内村議会定例会を再開いたします。
ただちに本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布したとおりです。

◎日程第1 議会運営委員会の報告

- 議長（中井康雄君） 日程第1、議会運営委員会の報告を求めます。
追加事件に係る議会運営委員会が終了し、報告書の提出がありました。
委員長の報告を求めます。
宮部議会運営委員会委員長。
(宮部修一議会運営委員会委員長登壇)
- 議会運営委員会委員長（宮部修一君） おはようございます。
それでは、議会運営委員会の結果について、ご報告いたします。
本定例会での報告1件、継続費の継続年度終了による精算についてと議案1件、令和3年度中札内村一般会計補正予算の追加について、村長より追加提案がありましたので、14日の本会議終了後、議会運営委員会を開催し、了承いたしました。
報告1件は、請願第4号の採決終了後に報告第4号、追加議案1件の審議は、報告第4号の報告後に議案第60号でお願いいたします。
以上、協議内容についての、ご報告といたします。
- 議長（中井康雄君） 報告が終わりました。
お諮りします。
議会運営委員会委員長の報告のとおり、報告1件、継続費の継続年度終了による精算については、請願第4号の採決終了後に報告第4号として、議案1件、令和3年度中札内村一般会計補正予算については、報告第4号の報告後に議案第60号として審議することにいたしたいと思っております。
このことに異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)
- 議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。
したがって、追加の報告1件は、報告第4号とし、請願第4号の採決終了後に報告し、追加の議案1件は、議案第60号とし、報告第4号の報告後に審議することに決定しました。

◎日程第2 閉会中の所管事務調査報告

- 議長（中井康雄君） 日程第2、閉会中の所管事務調査報告を求めます。
産業文教常任委員会から、農作物作況調査が終了したとの報告がありました。
ここで委員長の報告を求めます。
北嶋産業文教常任委員会委員長。

(北嶋信昭産業文教常任委員会委員長登壇)

○産業文教常任委員会委員長(北嶋信昭君) おはようございます。

それでは、農作物作況調査報告をいたします。

それでは、赤ナンバー7番の令和3年度産業文教常任委員会農作物作況調査について報告いたします。

産業文教常任委員会は、例年、村農業委員会との合同により、主要作物の作況調査を実施していましたが、緊急事態宣言の発令に伴う新型コロナウイルス感染防止対策として、昨年度と同様に本年度も合同調査を中止し、令和3年9月7日、火曜日に常任委員会独自に十勝農業改良普及センターが実施した9月1日現在の作況調査の資料をもとに、本村の基幹作物である豆類、てん菜、馬鈴しょ等の作況について検討しました。

調査参加者は、産業文教常任委員5名と事務局2名であります。

検討結果ですが、本年は降雪量が平年より少なく、融雪も順調に進み、植付け、播種作業ともに早めに推移しました。

降水量は、4月下旬以降は平年より少なく、干ばつ傾向となりましたが、8月に入り、まとまった恵みの雨量となり、日照時間は6月上旬から多くなり、平年を上回る安定した生育条件が見られました。

総じて、気温は平年を上回る高い気象条件となり、農作物の生育には高温による影響が見られたものの全般的には順調に推移しました。

小麦は、初期生育に恵まれた気象条件となり、稈長、穂長は長いものの穂数が少なく、収量不足が心配されましたが、収穫作業が短期間の7日で順調に進み、収量は前年を165キログラム上回る、受入反収13.36俵を見込み、品質は1等Aランクで調整中であります。

以下、各作物の今年の状況について、次のとおり取りまとめました。

豆類では、小豆は7月中旬の高温により花落ちたこと、8月上旬の多雨により徒長傾向にあるため、収量は平年を下回る見込みであり、大豆、手亡は茎長と莢数が並か多く、平年以上の収量を見込んでいます。

金時は、小粒やしわが目立ち、7月の高温により葉が焼ける症状が見られたことから、平年を下回る見込みであります。

馬鈴しょは、植付け後は順調に生育し、8月19日現在の南工連の登熟調査では、澱原専用品種は収量、澱粉価ともに前年を上回る予想をしています。

てん菜は、7月中旬から下旬の高温により、生育が緩慢になったものの、8月の降雨により回復し、収量は平年並以上を見込んでいます。

飼料作物は、根雪が遅かった影響で地域によっては冬枯れが見られましたが、一番草、二番草ともに、収量は平年並を見込んでいます。

デントコーンは、稈長が長く、着穂高が高く、支柱根が細いことから倒伏のリスクが高いものの、収量は平年並を見込んでいます。

資料の作況調査に基づく収量予想集約表は、平年値と比較し、まとめましたので、ご覧いただければと思います。

以上、農作物作況調査の報告といたします。

○議長(中井康雄君) これで委員長の報告を終わります。

◎日程第3 請願第4号 義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書の採択を求める請願

○議長（中井康雄君） 日程第3、請願第4号、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1／2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書の採択を求める請願を議題といたします。

この請願第4号は、産業文教常任委員会に付託した事件です。

審査が終了し、委員長からの報告書の提出がありました。

委員長の報告を求めます。

北嶋産業文教常任委員会委員長。

（北嶋信昭産業文教常任委員会委員長登壇）

○産業文教常任委員会委員長（北嶋信昭君） 産業文教常任委員会審査報告書。

令和3年9月9日開会の定例会において、付託された事件について審査を終了したので、会議規則第94条の規定により報告いたします。

審査終了した付託事件は、請願第4号、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1／2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書の採択を求める請願についてであり、審査は9月9日、全委員の出席を得て審議いたしました。

結果は、本請願の内容・趣旨は十分理解できるものであり、請願第4号は採択と決定しました。

以上、報告いたします。

○議長（中井康雄君） 報告が終わりました。

これから、請願第4号の委員長報告に対して質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

請願第4号の委員長報告に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

請願第4号、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1／2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書の採択を求める請願を採決いたします。

この請願に対する委員長の報告は、採択です。

委員長報告のとおり、採択と決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、請願第4号は、委員長報告のとおり、採択することに決定いたしました。お諮りいたします。

北嶋議員から、意見書案第7号が追加提案されました。

この際、これを日程に追加し、順序の変更をして、ただちに議題にしたいと思います。

このことに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第7号を日程に追加し、順序の変更をして議題にすることは決定しました。

暫時休憩いたします。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

**◎日程第4 意見書案第7号 義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、
「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の
実現に向けた意見書**

○議長（中井康雄君） 追加日程第4、意見書案第7号、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書を議題にいたします。

お諮りします。

この意見書案第7号は、会議規則第39条第2項の規定により、提案理由の説明を省略したいと思えます。

このことに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第7号については、提案理由の説明を省略することに決定しました。

意見書案第7号について、質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

意見書案第7号に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

意見書案第7号、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書を採決いたします。

この意見書案は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第7号は、原案のとおり可決されました。

◎日程第5 報告第4号 継続費の継続年度終了による精算について

○議長（中井康雄君） 追加日程第5、報告第4号、継続費の継続年度終了による精算についてを議題にいたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

森田村長。

(森田匡彦村長登壇)

○**村長（森田匡彦君）** 継続費の継続年度終了による精算についてご説明申し上げます。

継続年度が終了しました役場庁舎建設事業について、地方自治法施行令第145条第2項の規定により、調整した継続費精算書について報告するものであります。

詳細につきましては、担当課長より説明申し上げますので、よろしく願いいたします。

○**議長（中井康雄君）** 補足説明、川尻総務課長。

○**総務課長（川尻年和君）** 報告第4号、継続費の継続年度終了による精算について、補足説明を申し上げます。

それでは、黒ナンバー19番、議案書その2の2ページをお開きください。

2款総務費、1項総務管理費、役場庁舎建設事業で、令和元年度と令和2年度の2カ年の継続事業であります。

まず、全体計画であります。令和元年度は、年割額が6億745万9,000円で、その財源は、地方債が3億2,050万円、その他の庁舎整備基金及び諸収入2億8,682万5,000円、一般財源が13万4,000円となっております。

令和2年度につきましては、年割額は6億5,975万2,000円で、その財源は地方債が3億8,080万円、その他の庁舎整備基金及び諸収入が2億7,890万8,000円、一般財源が4万4,000円となっております。

これに対しまして、令和元年度は、支出済額が3億2,958万7,000円で、財源内訳は、地方債が1億4,040万円、その他の庁舎整備基金及び諸収入になりますが、1億8,915万3,000円、一般財源が3万4,000円となり、令和元年度の年割額と支出済額の差、2億7,787万2,000円を令和2年度へ定時繰越したところでございます。

このことに至った要因につきましては、役場新庁舎建設事業の建築主体、機械設備、電気設備工事の進捗状況に合わせて年割額を変更したところによるものでございます。

次に、令和2年度につきましては、支出済額は、繰越額2億7,787万2,000円を合わせた9億3,762万4,000円を支出したところでございます。

その財源内訳は、地方債が5億6,090万円、その他の庁舎整備基金及び諸収入が2億7,890万8,000円、一般財源が9,781万6,000円となったところでございます。

次に、年割額2カ年の合計につきましては、12億6,721万1,000円で、その財源内訳は、地方債が7億130万円、その他の庁舎整備基金及び諸収入が5億6,573万3,000円、一般財源が17万8,000円です。

これに対しまして、支出済額の2カ年の合計と財源内訳の地方債については同額でございます。

財源内訳のその他の庁舎整備基金及び諸収入が4億6,806万1,000円、一般財源が9,785万円となっております。

最後になります。

中段の比較表の表でございますが、実際の支出ベースで考えますと、財源内訳、その他の庁舎整備基金9,767万2,000円が減額となり、一般財源9,767万2,000円が増額となっております。

これにつきましては、特定財源のその他の庁舎整備基金を令和元年度に充当してから、令和2年度へ繰越することによって、一般財源の取扱いとなったことによるものでございます。

以上で、継続費精算報告を終わらせていただきます。

○議長（中井康雄君） 説明が終わりました。

報告第4号、継続費の継続年度終了による精算については報告済みといたします。

◎日程第6 議案第60号 令和3年度中札内村一般会計補正予算について

○議長（中井康雄君） 追加日程第6、議案第60号、令和3年度中札内村一般会計補正予算についてを議題にいたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

森田村長。

（森田匡彦村長登壇）

○村長（森田匡彦君） 提案の趣旨についてご説明申し上げます。

既定の歳入・歳出予算の総額に、それぞれ137万5,000円を追加し、総額を53億9,944万1,000円に調整したものであります。

詳細につきましては、担当課長より説明申し上げますので、よろしくご審議、ご決定くださいますようお願い申し上げます、説明を終わります。

○議長（中井康雄君） 補足説明、川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） それでは、一般会計補正予算の補足説明を申し上げます。

黒ナンバー20番をご用意いたします。

一般会計補正予算書の7ページをお開きください。

4款衛生費、説明欄最上段、修繕料137万5,000円の追加は、8月末に村立診療所の温水システムの不具合が発生し、業者への点検依頼を行った結果、給湯用減圧弁の故障と配管の老朽化による錆の剥離が要因でございます。

併せて、給湯循環ポンプの劣化による漏水が認められたため、関係機器類の交換を行うものでございます。

最後になります。

6ページをご覧ください。

今回の補正予算に対し、歳出に見合う額を、19款繰越金で歳出に見合う額として137万5,000円を追加し、調整するものでございます。

以上で一般会計補正予算の補足説明を終わらせていただきます。

○議長（中井康雄君） これで提案理由の説明を終わります。

議案第60号に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

議案第60号に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

議案第60号、令和3年度中札内村一般会計補正予算についてを採決いたします。

この議案は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(中井康雄君) 異議なしと認めます。

したがって、議案第60号は原案のとおり可決されました。

◎日程第7 一般質問

○議長(中井康雄君) 追加日程第7、一般質問を行います。

質問、要旨、答弁はそれぞれ簡略明解に願います。

順次、質問を許します。

通告順により、最初に4番大和田議員。

○4番(大和田彰子君) それでは、質問をさせていただきます。

まず内容は、ときわ野行政区周辺の交通アクセス状況について、お聞きいたします。

ときわ野地区は2009年から第1次分譲が始まり、村内外から人気の分譲宅地となり、移住してくる方、村民で持ち家を建てられる方などで早々に住宅街が形成され、これまで第2分譲地から第4分譲地まで団地が広がっております。

現在、100世帯約350名の方々が暮らしておられ、今後も住宅建設が進むにつれ、さらに居住される方が増えていくことと思われまます。

ときわ野地区周辺には、道の駅、学校、スーパー、保育園、公共施設などの環境が整っており、とても便利でにぎわいのある地域で、団地内もきれいに整備されております。

そのような良好な環境の中でも、アクセスの不便さについて住民の方からの指摘の声が聞かれます。

この分譲団地は、旧山栄林産跡地と畑地に造成され、当初は既成市街地と離れていたこともあり、また国道と道道で分断されていた地区であったことから、住宅街になることを前提に道路整備がされていなかったことも要因の一つではないかと思われまます。

ときわ野行政区や住民の方から、これまでに下記の件について村に意見があげられていると思ひまます。

一つ目、ときわ野地区から国道を横断するための新たな横断歩道及び信号機の設置について、関係機関への働きかけやその結果についてどのような状況にあるのか。

二つ目、村民プールまでの整備が途切れている道路の、国道へ接続する道路または歩道整備についての要望に対する実施予定はあるのか。

三つ目、ときわ野地区の第3、第4分譲地側にバス停設置の要望は検討されているのか。

以上3点ですが、これまで村は要望に対してどのような検討がされて、関係機関との協議はどのような状況なのか、また、ときわ野行政区に対してどのように回答されているのかお伺ひいたします。

○議長(中井康雄君) 答弁者、村長。

○村長(森田匡彦君) ときわ野行政区周辺の交通アクセス状況に関するご質問について、それぞれ項目ごとに回答いたします。

はじめに、1点目のときわ野地区から国道を横断するための横断歩道及び信号機の設置についてですが、帯広警察署に対して横断歩道及び信号機の設置要望や確認を進めてきている中、本年6月に本署交通課が現地調査を行っております。

まず、横断歩道については、国道と道道のT字路から広尾方面に向かう場合、運転者は中札内市街地を過ぎたと認識し、カーブにより見通せない状況でスピードを上げていくこととなります。

横断歩道を単独で設置した場合、歩行者が国道を横断していることを見落として事故を誘発することになると判断されており、横断歩道の設置については、信号機と一体で進めていくべきではないかと考えられております。

また、横断歩道については、その設置基準に基づき、横断者数、交通量、公共性、既存の横断歩道との間隔などの条件を審査されたうえで設置決定されます。

信号機については、信号機設置の指針に基づき、道路における1時間あたりの自動車等往復交通量が300台以上と多いこと、信号機がないことで人身事故が年間2件以上発生していることなどが条件であるとともに、新規の設置においては、年間で北海道全域において5基程度と設置台数が限られていることから、横断歩道と信号機の一体的な設置は難しい状況にあります。

次に、2点目の村民プールまでの整備で途切れている道路の国道へ接続する道路整備と国道における歩道整備の要望ですが、村民プールから国道までの道路整備については、国道と道道のT字の信号において、広尾方面から帯広方面に車が向かう状況下で赤信号だった場合に、園児、児童及び生徒が活用する道路を車のバイパスとして利用されることが懸念され、交通安全に支障をきたすと判断することから、国道へ接続する道路整備の予定はありません。

また、国道における歩道整備の要望については、道路管理者である帯広開発建設部が毎年、本村に来村されて行われている事業予算及び概要説明会において、本村における児童及び生徒の3割以上がときわ野行政区に居住している状況を踏まえ、平成30年度から国道における歩道整備の必要性について、説明し要望してきているところであります。

令和2年度においては、帯広開発建設部道路計画課の担当職員と本村の総務課、教育委員会の担当職員が実際に現地を歩行して、歩道の必要性について、協議を行っているところであります。

しかしながら、帯広開発建設部においては、十勝管内の他市町村から同様の道路整備の要望を受けており、国の限られた予算の中で緊急度や優先順位を見極めながら、事業執行しているため、現時点での本村の歩道整備について実施予定はない状況にあります。

次に、3点目のときわ野地区の第3・第4分譲地側にバス停設置の要望についてですが、バス停の設置については、帯広広尾線の路線バス会社である十勝バスへバス停設置を要望するとともに、北海道運輸局と国道の道路管理者である帯広開発建設部へのバス停設置に対する申請手続きが必要となります。

その際に必要となることは、バス停設置に際して、バスが到着するまで待合場所としての安全性が確保されていることが条件となります。

よって、将来的に国道への歩道整備が竣工し、バスの待合場所としての安全性が確保されたうえで、バス停設置の要望を検討したいと考えております。

ときわ野行政区への歩道整備、信号機等設置及びバス停設置に対する回答についてですが、平成25年度の村おこし懇談会を皮切りに、4回の懇談会を通して貴重なご意見や要望をいただいております。

その懇談会では、村民プールから国道までの道路整備については、利便性を考慮すると道路ではなく遊歩道を横断歩道の設置と併せて、総合的に検討していかなければならない案件として伝えているとともに、国道と道道のT字路東側への信号機設置要望については、交差点の信号機から一定の距離がないため、設置ができない旨の回答をしております。

最後になりますが、村といたしましても、ときわ野行政区周辺の交通アクセス状況についての課題は認識しております。

国に対して継続して主要懸案事項として要望していくとともに、引き続き、関係機関等と連絡を取り合ってまいります。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 答弁書読んでなのですけども、国道における歩道整備の要望についてはと書いてあるんですけど、国道における歩道整備の要望については私は触れておりません。

②のプールの途切れている道路から国道へ接続する道路または歩道の整備の予定はあるのかということをお聞きしたのですよね。

多分、訂正であるならば、答弁お願いします。

意味わかりますか。

国道の歩道整備の要望について書かれているような気がします。

それではなくて、②ですけども、村民プールまでの整備で、途切れている道路から国道へ接続する道路または歩道整備についての要望は実施予定があるのですかという話を聞いたのです。

そこはちょっと違ったふうに解釈されたのかなと思うのを前もって。

もし何かあるのなら答弁お願いします。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 大和田議員の質問にお答えしたいと思います。

歩道の設置ということで回答させていただきました。

こちらの部分につきましては、ちょっと読み違えて回答したことについてはお詫びを申し上げます。

歩道の整備につきましては、道路と同様に、今のところ設置がないということでございます。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） では、再質問の方に移らさせていただきます。

この質問をしようと思った経緯なのですけども、ときわ野に引っ越してきた友人が、中札内は本当に気に入ったということで、福祉も充実されていて、まちの魅力も本当にたくさんあって、環境も整っていいって言っておりますが、残念なことに、このアクセスが今一つだというのを実態をちょっと聞いたのがきっかけであります。

それで、そこの行政区の人たちはどうなのかなと思ひまして、ときわ野の区長に実際にお伺いに行きました。

行ったところ、ほかの住民からの要望もかなり受けており、ときわ野地区では、平成25年度からですか、4年間、まちづくりトークというのもやっていて、そこでずっと言い続けてきたということです。

でも、改善されずに現在に至っているという状況をお聞きいたしました。

そこが質問の経緯なのですけども、それで、1番と2番は関連しているので、併せてお聞きしたいと思います。

まず、ときわ野の地区の実態からです。

ときわ野住民は、特に第3、第4分譲地の方は、プールや保育園、小学校、図書館などに行くために、信号機のある横断歩道まで遠回りしなくてはなりませんが、実際は横断歩道がないところを渡っている住民がいて、大変危険という情報が寄せられております。

そういう実態を役場は聞いているはずなのですけども、大人も渡っているし子どもも渡っているというのが、近隣の方が目撃しておりますが、そこでどういう状況なのかと思

って、実際に私も行ってみました。

そうすると、行動を渡り、草むらを歩いた後が何箇所もしっかり付いていたのですね。

その状況はどう考えるのか、お答えください。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） 国道横断についてであります。

もともとプールまで遊歩道が設置できないかというお話も現実的にはありました。

プール側から、車が走行するような道路をつくったのだと、その道路自体がバイパスとして使用される可能性がある。

つまり、あの道路自体はプールと保育園、文化創造センターの駐車場の角のところで曲がってということなので、T字路のところ、国道と道道の交差点の信号機、あそこを通過するのが、待つのが嫌で、バイパス的に内側を回って直接国道に出るということも想定されて、この答弁の中でも回答しておりますとおり、直接普通自動車が抜けるような道路をつくる考え方は今の段階ではないというお答えになっております。

ただ、人が、例えば、プールとか保育園に行くときには、その敷地内、プールと国道との間ですけれども、その敷地内に遊歩道は設置することは考えられるのではないかと。

ただ、その中に、回答の中でも言っていますとおり、そこを渡れるということになると、国道自体もそこを渡っていいよみたいな扱いになってしまう。

なにしろときわ野分譲地自体が国道の反対側、南側にあるわけですから。

そこでさっきの答弁の中にある、そこに横断歩道を設置したときには、今のT字路交差点の横断歩道との距離、国道を走っている広尾方向に向かう車が逆にカーブであることを、横断歩道が見えないことでスピードを上げていった先に横断歩道が存在してしまうこととなると、横断歩道のみをそこに設置するわけにはいかないのではないかと。

ということは、合わせて信号機も設置と。

そこで出てくるのが、既存の信号機との距離と。

こういう状況になっておりますので、村の方としても、横断歩道がないところを村民の方が渡るということのを良しとするわけではないです。

それは当然、今ある信号を使って、横断歩道を横断して、少し遠回りにはなるのかもしれないけれども、それでもそれを渡って安全な歩道を使ってもらって、保育園とかプール、そちらの方に行っていただきたいというのが村の本心であります。

当然、そこを横断する方を見かけたときにどう対応するかという問題はありますけれども、村の考え方としては、他の道路と同様、言ってみれば、横断歩道があるところについては当然横断歩道を渡っていただくというのは、当然、道路交通法上の決まりでありますから、それを守っていただきたいということになろうかと思えます。

渡る実態あるから、確実にそこに横断歩道ができるかどうかということについては、先に答弁をさせていただいたとおりでございます。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 私は横断歩道だけを要望しているわけではないのですね。

横断歩道に、さっき副村長が言われるように、横断歩道だけ付けたら本当に非常に危険です。

そうではなくて、横断歩道とやっぱり信号機がセットでないと、そこは不可能だなんて思っています。

それで、横断歩道が難しいということなのですけれども、ちょっとお聞きしたいのですけれども、信号機の設置のところ、手押し式の設置は同じ条件、信号機付けたときと同じ条

件をクリアしなければならないのかをお聞きいたします。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 大和田議員の質問にお答えしたいと思います。基本的には、先ほど申しあげました手押し信号につきましても、同じ信号機でございますので、基準は変わりません。

距離さらにはピーク時の時間数の車が300台以上。

さらには、人身事故が年間2回以上起きているというところでないと、なかなか付かないというような状況でございます。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 信号機から一定の距離がなければだめだということであれば、例えば、まちの中のローソンから南に向かって、旧役場の前の交差点もあります。

そこなんかはかなり近い状況で信号機があるような気がしますけども。

一定距離がないとだめだというのは、何か私にはちょっと意味がわかりません。

そして、そんなように、村は横断者数とか交通量などの理由でできない、できないという答弁ばかりが気になります。

今までも、行政区長からもこういうことをずっと言い続けてきましたけども、村のスタンスというのはそういうではなくて、村民の感じている課題に対応するのが村の責務だと思うのですよね。

そこをよく考えて、何をクリアしたらできるか。

そのためにはまず何をしたら良いかをじっくりと住民と一緒に考えていただきたいというところです。

あと、次ですけれども、歩道、さっきの言った遊歩道ですね。

私の質問の書き方もちょっと悪かったのかもかもしれません。

この歩道ですけれども、プールのあの途切れている道路から国道に抜ける歩道ですね。

ここは車が通る道路付けてほしいとは要望していないのですね。

人やベビーカーとか車椅子が行き来できるような遊歩道を付けてほしいということですよ。

それはかなり前から遊歩道の要望が上っているのですが、そこはなぜつかないのかなと思いましたが、さっき副村長がそういうような答弁でしたけども。

あそこは草藪ですごい生い茂ってはいるのでですけど、この間見に行きました。

きれいに草刈りしてありました。

それは、あそこ通っていいよということなのでしょうかね。

あそこ通って、渡るのだったら渡っていいよと言わんばかりの行動ではないですか、草刈りしてあるのであれば。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） 今、草刈りのお話がされたのは、きっと国道と歩道との間の草地帯、草が生えている場所とすると、国道とプールの間の開きということだと。

単純にそこを渡っていけるように草刈りをしたわけではございません。

単純に雑草生やしたままだと景観上も良くないということで、年間何回か刈り払いを行っているそのタイミングだったというふうに思います。

ただ、そこを渡って歩けないかといったら、通路が付いていないだけで渡れないわけではないかなとは思いますが、それをよしとして遊歩道扱いみたいにしていただければと思います。

ですから、渡っていいよということで、そこを通行していいよということで草刈りをしているということではないというふうに考えます。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） かなり中途半端ですね。

行政はそういうふうに思っているかもしれませんが、住民は、ああ渡っていいのだからって。

あそこウォーキングしている人は、あそこに歩道ありますから歩道からぐるっと回って。

私もウォーキングしているときに、ここは渡っては本当はいけないのかな、でも、罪悪感あるのですね、やっぱり。

渡ってはいけないところを渡ったら、誰か見ているのかなとか。

そこはきちっとはっきりさせてほしいです。

遊歩道付けるなら付ける、付けないなら付けないって。

今後、そこはずっと課題なので、どうかしてほしいです、そこは。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） この場でその話を続けるというのちょっときついものがあるかもわからないですけど、村の方としては、環境整備の一環として刈り払いを行っているということだけでございます。

ですから、刈ってあるからそこを渡ってもいいとか、入ってはだめとか、そういう取扱いをしている考えはございません。

あの裏手には学校林が存在しますし、学校林の中も雑草対策、笹の刈り払いとかそういうこともやっています。

学校林の中を歩いて抜けることも、当然可能というふうに認識します。

それをもって渡ることを是としているとか、だめですと言っているとか、そういう話にはちょっとならないのではないかなというふうに思うのですが。

こちらからの問いかけみたいになって申しわけないです。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 学校林もあると言いましたけど、あの中はちょっと通りました、私も。

ただの草藪で、虫もすごいし、はっきりとした道路も付いていません。

道路というか歩くところも。

こっちかな、こっちかなと思いがらうろうろ歩いて、やっと向こうの信号機にたどり着いている状況です。

なので、そこも中途半端な整備ですね、それを言うのであれば。

だから遊歩道も、あそこは通っていいのか、それとも、では、あそこは通ってはだめだったら、学校の中の遊歩道らしきものを取っているかなと思って、そこも全部中途半端です。

やはり、どっちか、きちっと整備をお願いしたいと思います。

次に、バス停のことです。

バス停ですね。

この文書を読みますと、将来的に国道への歩道整備が竣工し、バスの待合所として安全性が確保された上でバス停設置の要望を検討したいと考えておりますと書いてあります。

この歩道が付かない限りはバス停は付かないという意味だなと思いました。

その前には、現時点で本村の歩道整備については実施予定がありませんと言われているのですね、当分の間。

ということは、当分バス停は無理でしょうという言い方かなって思って聞いていました。

バスの歩道というかレーン、下りたときにバスの待合場所がないというのはだめだとわかります。

これらをクリアしないとだめって。

でも、実際に高齢者や、それから高校生が今度どんどん増えていく。

住んでいる人にとっては本当に道の駅まで歩くのは大変です。

必要性を感じて要望をしております。

それで、バス停ですけども、更別からバスが来るとすると、六花亭入口辺りが4線です。

その次、順番に3線、2線、1線ってあります。

走って見たらわかったのですけど。

1線まであるのなら、なぜバス停、基線がないのですね。

そこまでバス停あるのに基線だけがない。

一番人口の多い基線だけがなくて、ずっとなくて道の駅にやっとならなくて。

ないことが不思議で、あるのが普通なのに、どうしてないのかなって。

そしてその、それぞれのバス停にはどんなレーンが付いているのかなと思ったら、そのバス停の周りだけに待合所、レーンと言うのでしょうか、待合場所が付いているだけで、あとはないです。

そういう状況の中でもバス停があるのですね。

だから、その乗り降りする待合場所を整備すれば、それで付くのではないかと思います、その辺はどうでしょうか。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 大和田議員の質問にお答えしたいと思います。

大和田議員言われるとおり、更別から来ると、4線、3線、2線、1線というような形でバス停があると思います。

基線につきましては、当時整備したときに、まだその辺が分譲地でなかったということが想定されるのかなというふうに思いますが、まず歩道というか、そのバス待合所になるための整備について、昨年、開発の担当者と私ども一緒に、そういったようなところで、こういった条件だということ歩いて、いろいろ検証をしてみたところです。

それで、先ほど回答にもありますけども、他町村からもそういった要望が多く寄せられていて、すぐ付けることは厳しいけどもというような話はいただいております。

ただ、何らかの法則で、歩道整備について早くできる方法がないかということで、今後、担当者レベルの協議を今持とうと考えているところでございます。

その中で、まず、歩道が付けばそういったような待合所としてしっかりとできると思いますので、その際には、バス停の設置というような要望も十勝バスの方に上げて、バスの待合としての安全安心をした上で、バス停の設置を要望していきたいというふうに思います。

○議長（中井康雄君） 時間来ましたので休憩をさせていただきたいと思います。

11時10分まで休憩いたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午前10時55分

再開 午前11時05分

○議長（中井康雄君） それでは、皆さんお揃いになりましたので、休憩前に引き続き会議を開きたいと思います。

大和田議員の再質問からお願いいたします。

4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） なかなか難しいということがわかりました。

信号機も難しい、横断歩道も難しいっていろいろな実態をお聞きしたのですけれども、ときわ野第3、第4分譲地に住んでおられる方々は、やはり渡っているのが実態です。

そういう意味で考えますと、安全対策、そこが信号機、横断歩道が無理であれば、どんな安全対策をしたらいいのかというところを考えなくてはならないと思いますが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） 今、実態として国道渡っておられる住民の方がいらっしゃるという点では、その危険が当然あるわけですから、交通安全教育を徹底するということしか、今のところは言うことができないかなというふうに思います。

変な話、分譲地内の道路を使って道道に出てって、遠回りだからということで国道を渡られるというのはわかりますが、一番安全な道はどこかということを選択すると、当然それは国道上を歩くのではなく、団地内通路を歩いてもらって、歩道の中を信号を使って渡ってもらうと。

これは当然小学生、小学生という言い方変ですけど、学生さん、生徒、児童に対しては、当然そういう指導をすることになるのだらうというふうに思います。

何もないところを渡ることを是とするような指導をするわけにはやっぱりいけないと思いますので。

それが通学路ということになると思います。

大人も含めて、そこを渡っているということになれば、大人の皆さんにも、その行為自体が子どもさんも見ているのですよというようなことを、何も付いていない今の段階では、そういう指導を徹底する、周知をするということしかちょっと言えないのかなというふうに思います。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 残念な話ですけども。

答弁書読みますと、今後も総合的に検討していきたいという話を書いておりますけど、総合的に検討していきたいという言い方は、まちづくりトークのときも同じような内容で言ってきたということで。

実態は大変だということがわかりましたけども、住民にとっては、やっぱり無理なのかと、先延ばしされるだけなんだねという思いでがっかり感があります。

ですので、ちょっと地下掘ってできないのかとか、信号機とか付けないのであれば、そのぐらいもしてほしいという意見もちょっと出ましたけれども、今後、この話は終わるのではなくて、実態はこうですので、ぜひ、前向きに住民たちのことを考えて、住民の意見を踏まえて、今後も考えていってほしいと思います。

意見ですけど。

○議長（中井康雄君） 森田村長。

○村長（森田匡彦君） 最後にちょっと私の方からお話させていただきます。

先ほど、副村長からも話ありましたとおり、一番安全に目的地につくルートというのはきちんと確保されているわけです。

ときわ野の住宅街の中通って、国道の歩道あるところ通って行く。

ここで、本当にまちづくりの根幹にかかわる部分なので、私の方からお話させていただくわけですが、ときわ野の住宅地は、本当に交通上不便なんでしょうか。

というのは、中札内全体をよく見ていただきたいなというふうに思います。

もっと整っていない環境で住まれてバス停まで行っているお子さんもたくさんいらっしゃいますし、ご高齢の方もいっぱいいらっしゃいます。

僕も実際あの辺りをごみ拾いとかして歩きますけれども、非常に実は正直言うと、十分便利なのではないかなという。

ただ、あれが付けばいい、これが付けばいいということで、もっと便利にする方法がありますけれども、では、本当にそれって福祉政策として正しいのかというのが、正直言うと、僕も一住民から行政をあずかる立場になって疑問に感じる部分はあります。

なので、今我々のいる環境は本当に恵まれていないのか、十分恵まれているのではないかとこの視点で見ると、全く違った視点が見えてくるのですよね。

非常にときわ野からバス停まで行く、ときわ野から学校に行くまでのルートというのは、ちゃんと安全な道を通れば、そんなとんでもない遠回りではなくて、安全に行くことができます。

なので、このことを理解すれば、またちょっと違った考え方になってくるのではないのかなというふうに思いますので。

これはあらゆるまちづくりにこれから必要な視点になってきますので、便利さは必ずリスクと表裏、背中合わせであるものですから。

必ずしも便利さを追求することが、本当に住民にとっての利益になるのかというのは、これは本当に難しい問題がありますので、そういった面で、さまざまな総合的な観点で、本当に必要なことはしっかりやっていますし、先ほどの歩道とバス停のことについては、これは先延ばししているわけではなくて、本気で我々考えて取組んでおりますし、そういったことをご理解いただければなというふうに考えております。

○議長（中井康雄君） それでは、次進みたいんですけど、私、議長がこの席で自分の意見を言うことは許されていないのですが、一つだけ。

何かがあってからでは遅い。

きちっと、言うところには言う、声を大きくして、今まで以上にも声を大きくして要望していくところにはしていく。

そこら辺のことは村としてもきちっとやっていただきたい。

そんなふうに思います。

それでは、次に、5番北嶋議員。

○5番（北嶋信昭君） それでは、お許しをいただきましたので、質問させていただきます。

村の歴史・伝統・文化についてです。

中札内村は、昭和22年に大正村から分村してから74年になります。

長い年月の歴史の中に先輩たちの苦労があったからこそ、中札内村は他町村に負けない

豊かな村であると私はそのように思っております。

しかし、近年、新しいことが先立ち、この村の歴史・伝統・文化を感じさせる部分が見当たりません。

新庁舎外構工事にはほとんどないように見えます。

自分は、このような昨今の村づくりにおいて、昔の歴史・伝統・文化は失われていってしまうのではないかと心配しております。

これからの中札内村はどう進んでいくのか心配ですので、村としてはどのように考えているのか伺います。

○議長（中井康雄君） 上田教育長。

○教育長（上田禎子君） 村の歴史・伝統・文化についてですが、北嶋議員がおっしゃるとおり、村の開拓の始まりは明治36年、中札内村の誕生は昭和22年と、それぞれ開拓の歴史から118年と74年が経過しております。

日高山脈のふもと、厳しい気象条件の中で原始の森を切り開き、生活の困窮や、度重なる冷害や災害に耐え、今日の肥沃な大地をつくりあげ、中札内村の繁栄を築いてきた先人の偉業には敬意を表すとともに、自主自立の開拓精神を継承し、未来へつないでいくことは私たちの責務であります。

このことは、まちづくり基本条例の前文に、「私たちは、先人のたくましい開拓精神、そして、たゆみない努力と英知により築かれた、豊かな大地と歴史や文化を未来に引き継ぐため、地域を愛する気持ちを培いながら、将来にわたり住んで良かったと思えるまちづくりを進めて行かなければなりません」とあるように、時代に即した活力あるまちづくりを行うため、私たちを育ててきた郷土の足跡をたどり、現状を正しく認識して、計画的なまちづくりを進めております。

学校教育においても、子どもたちに歴史・文化・伝統に接する機会を増やしていくことは郷土愛を醸成するとともに、後継者の育成にも極めて有効と思われ、小学校社会科の副読本を作成し、この中に「郷土の伝統・文化と先人たち」として地域の伝統や文化について、古くから残るものには、どのような願いがこめられ、どのように受け継がれてきたのかを学習してきました。

また、歴史・文化・伝統について後世へ継承するためには、地域の人々がその価値を十分に理解し、世代を超えて後世に残したいという意思が形成され、共有されていることが必要と思われまます。

これまでも「新しい施設を整備するだけではなく、地域の歴史を生かしたまちづくりをしてほしい」との意見が出されてきたことから、開拓記念館の整備を行い、開拓当時の生活を物語る家具などを展示してきました。

文教ゾーンにあります文化創造センターの外構では、広い敷地を活用して、村木であるかしわの木を中心に据え、周辺に広葉樹などの植樹を行い、自然空間の保存に努めております。

このように、役割を持っている施設等を活用して、先人の営みを伝える歴史・文化などが村民に理解され、今後のまちづくりにつながり、今を超えてさらにこの先も次代に継承されていくよう取組んでまいりたいと考えております。

○議長（中井康雄君） 5番北嶋議員。

○5番（北嶋信昭君） ありがとうございます。

このとおり立派な答弁をしていただきました。

このとおりに村がなっていれば何も質問しないわけですよ。

いろいろ教育委員会で調べていただいたことも、今現実に行っていることもわかりま

す。

自分で言いたいことはこの通りなのですけども、この中に、やっぱり村民に伝わっていないもの、村民参加でないもの、いろいろあるわけですよ。

特にまちづくりトークとかそういうものに関しては、村民3人とか、そのぐらいしか来ていないわけですよ。

これをどういうふうにしていったら改良して皆さんと一緒にやっていくかということが必要でないかと。

それから、なかなかこの中に村民参加のできるものが少ないと。

段々そういうものが薄れてくるような気がするのですよ。

教育長、今言ってくれたけど、かしわの木の問題も、設計当時から言って、言って断られて、やっとかしわの木1本植えてくれたわけですよ。

自分としては、中札内村に今時代が変わってくると、そこにみんな年寄りがつくった庭木が次の世代になったらみんな切られてなくなると。

そういうものを集めて、中札内の村民の親しんだこの村の外構をつくってほしいという要望をずっと出してきたのですよ。

そのときにも、かしわの話はなかったのですよ。

最後の最後に来て、ではかしわを植えますということになったのですよ。

そういうものが、我々が要望しているものが伝わっていないわけですよ。

ですから、今、教育委員会で、これは総務で言うのが教育委員会から出てきたのですけども、この通りの村をつくってほしいのは十分です、わかります。

ちょっと話それるかもしれないけど、この質問をしようとしたときに、ちょっと違うところから発想したのですよ。

これちょっと見てもらいたいのですけども。

これわかりますかね。

中札内中学校50周年記念協賛、平成9年の9月25日に撮った写真なのですよ。

これがなんで自分のところにあるかわかりますか。

この間、村の庁舎の中に不要になったものは100円で売りますよという、あったのですよ。

そこに行ったらこれがあったのですよ。

村長も総務課長も教育次長も、ここ出身なのですよ。

こういうものをへっちゃらで捨てられるのですよ、今。

そこを言いたかったのですよ。

今教育長に言われたことに対しては間違いもないけど、もっともっと村民参加の村づくりにしてほしいよということを言いたいわけですよ。

それで村民からも言われるのが、マスコミにはいつも新しいものばかりで、村は村外に発信するけども、村民にもうちょっと定着してほしいということが結構出てきているわけですよ。

これをなぜ出したかといったら、こういうものもう当たり前に捨てられる村になってしまっているわけですよ。

いい機会でしたから、今、教育長、答弁してくれたこと、これをしっかり守ってほしいのですよ。

もうちょっと村民参加をしていただくと。

そういう形の中で、村づくりに頑張してほしいのですけども、口で言ってもだめなので

すよ、これを。

これ教育長、どこにあったと、教育長、あとから来たからわからないけど、中学校の大事なもののなのです。

我々の母校の記念写真なのですよ。

今現在風に言えば、パソコンの中に入っていますよという。

思っていたのですが、言わなかったのだけど。

こういう古い写真に価値があるわけですよ。

村づくりも、これに例えて言うようなことですが、やはり村民が参加して、村民にわかるように、村民も協力していただく村づくりにしていただきたいわけですよ。

今朝もちょっと何人かと話してきたのですが、全然村はだめですねと。

農業に対して何もしてくれない。

道路も結構要望しているのだけども、道路もつくってくれないところあると。

更別から見たら、農村地区の道路はものすごく良くなっています、中札内。

良くなってきた代わりに、何件しか残っていないところ道路つくってくださいって、これ昔からの道路なのですよ。

そういうものを含めながら、ちょっと話ずれてしまうから困るのですが、とにかく、長々言いませんけども、村長、これ今教育委員会から出してきた素晴らしい言葉だと思ふし内容だと思ひます。

その通りです。

でも、もうちょっと村民にわかるように、村民の参加のできる村づくり、これが歴史・伝統・文化守っていただくことの村にしていきたい。

村長が新しくなったのだから、自分の言葉の中では、庁舎も新しくなったから歴史も新しくするのでないかみたいな理解される部分もあるわけですよ。

そうではないのですよ。

まず、村民の中から、村民に対してそういうものをつくっていかなくてははいけない。

村長いつも言っておりますよね。

住民第一、現場主義。

このとおりだと思ふのですよ。

まず、村のやったことを村外に発信することではなくて、村民がみんなで村づくりをするという形を、村民参加の村づくりにしてほしいわけですよ。

それで、この1枚の写真から、いろいろこういうふうになったわけですが、本当に村長、村長若いのだしこれからまだまだ頑張れると思ふので。

住民参加、これ大事なのですよね。

我々、今なんでこれが今言ったかといったら、自分は村の村立と同じなのですよ、昭和22年生まれなのですよ。

自分の歴史とそのまま来ているからね、馬から始まって、トラクター、大型機械になってきてるの全部見てきています。

そういうものがあったからこそ今があるのだということを、しっかり村も認識していただいて、そういうものを大事にしながら、新しい村でなくて、古くてもいいのです、中札内は良い村だと言えるようになってきているわけですから。

お願いになるのかもしれませんが、再度、村づくりに対して、考え直していただいて、今もやっているとと思ふのですが、文書だけでなくて実行に移していただく。

そういう村づくりに頑張ってくださいたいですけど、いかがなものでしょうか。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） 今回の答弁書で、一般質問に対する答弁の中に記載されていることが全てだというふうに思います。

そういう視点を持ち続けることがいかに重要かということが、今回の一般質問で私も含めて感じたところであります。

特に職員の中でも若い職員がどんどん入ってきている。

そういった状況からすると、村の歴史自体を知らない状況で入ってくるわけで、そういった部分については、当然歴史を振り返る時間も当然必要だというふうに思いますので、ポイントポイントで、読めよではなく、こちらから研修の機会も設けながら、村の歴史を再度振り返る時間も設けていくことが必要かなど。

またそれが、いかにこれからの未来のまちづくりに寄与するか。

そういったところも併せてだというふうに思います。

あと、村民参画の部分、ご指摘のとおり、これまで非常に少なかったということは当然ご指摘のとおりだというふうに思います。

ですからこそ、鉄道記念公園の整備ですとか、今もう1回やっていますけれども、パブリックキッチンの建設構想だとか、いろんな面が無作為抽出、できるだけ村民の皆さんに参加いただく、そういう機会をつくる努力は、まちづくり基本条例の中でも村民参加というのは非常に重要だと。

情報提供も含めて、情報共有することが非常に重要だということも記載してございますので、それに基づく村民参画の手法については、これまで以上に意を配して進めてまいりたいというふうに思うところであります。

それと、50周年の協賛会の写真、非常に申しわけありません。

そこまでの認識がなかったという点、非常にまずいなというふうに思っています。

確かにご指摘のとおり、ネガ、デジタル化されているものであれば、ファイル、そういったものがあれば復元はできるのですが、そのこと自体を軽んじたという部分はあろうかと思えます。

それはこの場を借りて、私の方からもお詫びを申し上げたいというふうに思います。

○議長（中井康雄君） 5番北嶋議員。

○5番（北嶋信昭君） 村としても前向きな答弁で、ぜひ、この文書に書いてあるようなことを含めて、進めていただきたいと思えます。

村の歴史の中に、今そこに、ホールにある太田一良さん、梶浦福督さん、それから山本幸一さん、この銅像は何のためにあるかという職員もあまり知らないと思うのですよ。

これは中札内を、今こういうふうにしてくれた立派な方たちなのですよ。

せめてここに置いてくれただけでもありがたいなという気がするのです。

これは以前にうちの議員が、これは何とかこの庁舎に置けという話の中から始まったことだと思っておりますけど、いろいろ今までいろんなこと言ってきましたけども、自分として今回は大事なことで、前向きに進んでいってもらわなくてはいけないのと、こういうことを語れるのは、多分我々の年代が最後ぐらいかなというふうな、なにかそういうものを感じたものですから、質問させていただきました。

本当に、教育委員会も頑張っていていただいていますし、それが言葉だけでなく、実現に向けて頑張っていていただくよう、村と教育委員会をお願いをして、終わらせていただきます。

○議長（中井康雄君） それでは、次に進ませていただきます。

次に、1番木村議員。

○1番（木村優子君） それでは、質問させていただきます。

子どもたちへの安心・安全の給食の提供について、ご質問します。

子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために、安全・安心の食の提供や食育については、教育や保育現場において積極的に取り組んでいくことが重要と考えます。

第6期まちづくり計画においても、給食は成長期にある子どもたちの心身の健全な成長と健康を支える上で大切な役割を果たしており、栄養バランスが取れ、子どもたちが楽しみにする安全で安心な給食の提供について記載されており、ふるさと味覚給食、地場産給食の日等の事業が行われております。

村では保育園、小中学校で給食を提供して下さっていることは、保護者としても大変ありがたく感謝をしているところです。

ただ、近年はアトピー性皮膚炎や化学物質過敏症の増加、生活習慣病の低年齢化など子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していると言われており、さらなる取り組みが必要ではないかと考えております。

そこで、以下の点についてお聞きいたします。

1点目、保育園や学校給食における食物アレルギー対応について。

北海道教育委員会が発行している「学校における食物アレルギー対応の進め方」によると、平成26年4月に発表された公益財団法人日本学校保健会の調査では、北海道におけるアナフィラキシーの既往を有する児童生徒は、10年前と比較すると、小学校で約5倍、中学校で約2倍に増加しており、小・中学校で全国平均を上回っております。

アレルギーには色々な原因がありますが、その主なものは食物によるものと考えられており、村でも今後、食物アレルギーを持ったお子さんが増えていく可能性があり、その対応について検討していくべきだと考えます。

過日、村の保育園給食や学校給食において、アレルギーを有するお子さんへの対応について、所管課の担当者にお話を伺い、現在の調理場の設備では、厨房での除去、代替食の調理・提供等の対応が難しい状況であるという説明を受けました。

それを踏まえ、次のことについて伺います。

1番、令和元年10月より、村は保育園において、利用児童全員の保育料や副食費、おかずやおやつが無償化を行っています。

子育て支援として経済的負担の軽減が目的ですが、アレルギーをお持ちのお子さんの場合、給食献立の中にアレルゲンとなる食材が入る副食の日については、各家庭が用意・持参することになっており、その副食費については保護者が負担しております。

普通給食やおやつを食べられるお子さんとそうでないお子さんのご家庭とで、保育園を利用する上で金銭的に差が生じているということになりますが、このことに対する村の見解をお聞かせください。

また、補助をするなど、何らかの対応をする考えはあるかもお伺いいたします。

2番目、現在の学校給食調理場は、平成6年に供用開始ということで、当時は食物アレルギー対応についての計画がなされずに建設されていることが推測されます。

現在の調理スペースではすでに手狭で、新たにスペースを確保することも困難であると伺いました。

今後の改修等計画において、増築によりアレルギー食対応の調理スペースを確保する、もしくは保育園と学校給食の調理場を一本化し、アレルギー食の対応ができる施設を整備

するなどの考えはありますでしょうか。

実際に学校給食センターのスペースの余剰部分で、高校や老人ホーム、保育園に給食提供を行っているという自治体があるということも聞いております。

2点目、給食における塩分摂取基準への取組みについてです。

平成31年、令和元年度の決算審査意見書の留意事項として、学校給食の塩分摂取基準の是正についての指摘がございました。

文部科学省から平成30年8月1日施行で塩分摂取量が改正されましたが、本村の学校給食における塩分摂取量は月平均して基準値よりも高く、適切な栄養の摂取による健康の保持増進や健全な食生活を営む上で、前述の生活習慣病の低年齢化の問題や予防の観点からも、幼児期からの減塩に努めるため、栄養素基準値の是正と管理体制について述べられております。

令和3年4月1日に施行される法改正で、さらにその基準が引き下げられたところですが、学校給食での減塩についての取組状況と基本の考え方、また、今後の取組について伺います。

○議長（中井康雄君） 森田村長。

○村長（森田匡彦君） 保育園や学校給食における食物アレルギー対応について、まず、1点目の保育園におけるアレルギーをお持ちで副食を持参いただくご家庭への副食費の負担についての村の考え方について、私の方から答弁させていただきます。

村においては、子育て支援施策として、令和元年10月より保育料の無償化を行ってきております。

国の無償化の基準では、一部給食費として実費徴収ができるとされておりましたが、村では従前より、副食費は保育料に含むものとして、無償化の際にも副食費を別途負担はいただくことはしておりません。

近年、食物アレルギーが多様化・複雑化してきている中で、きらきら保育園では現在、アレルギーを持つお子さんの保護者の方と意見交換をする機会を持たせていただきまして、5月以降、アレルゲン食材を使用せず、子どもたちが同じ給食を食べられる日を月に10日から12日程度設定させていただいております。

おにぎり保育等の日を除くと、給食提供日は月16日から18日であり、もちろんすべての日とはならないため、副食の食材によっては持参いただくメニューがありますが、献立を立てる際にはアレルゲンのない食材の選択など工夫できることを、栄養士、調理員、保育士が模索しながら取り組んでいるところであります。

副食費をいただかないということ、そして、お預かりするお子さんの生命を守るという観点から、結果として一部の保護者の方に副食を用意する手間や経済的な負担を感じさせる部分はあるかと思えます。

ただ、副食費の補助を含め、さまざまな福祉サービスを提供する上で村民に生じる経済的負担のすべてに行政が対応することは、現実的には難しい部分であります。

利用者ニーズのすべてにお応えすることはできませんが、保育園としては、幼児期における食育の意義を重視し、可能な限り子どもたちが同じ給食を食べられる対応に努力するとともに、給食の時間を楽しんでもらうために一定程度の食材の多様性も維持していきたいと考えております。

このような保育園の方針に対して、ご理解とご協力をいただけると幸いです。

次に、学校給食におけるアレルギー対応につきましては、教育長より答弁させていただきます。

○議長（中井康雄君） 上田教育長。

○教育長（上田禎子君） 続きまして、本村の学校給食におけるアレルギー対応については、国・北海道の食物アレルギー対応に基づき、「中札内村立学校における食物アレルギー対応の手引き」を平成28年に作成し、対応してきております。

今年度の対応は、原因食品が多い児童一人については、お弁当を持参いただき、卵アレルギー二人については、除去できるメニューのときは各クラスで教諭が除去を行い、それ以外の場合は代替食を持参いただいております。

本村の学校給食調理場は、アレルギー原因食品の混入に対応するための調理ラインを設けることが物理的に不可能ですので、このような対応となっておりますが、十勝管内19市町村の対応状況はさまざま、代替食を提供しているのは8町村ほどあり、対応する調理ラインを設けている調理場になります。

今後の改修計画時に提供できるようにとのご提案もありますが、調理ラインを設けることは全面改修、併せて増築しなければ難しい状況であります。

このような状況から、当面は現在行っている除去と代替食の持参を学校及び保護者との協議を行いながら対応してまいりたいと考えております。

現在は、黙食が続いている学校給食ですが、児童生徒が安全で安心な楽しい学校生活を送るためには、アレルギーを有する児童生徒の状況について、他の児童生徒からも理解が得られるような配慮も必要ですので、理解度に応じた食に関する指導や保健指導、食物アレルギーに関する内容の指導も行ってまいります。

2点目の、学校給食における塩分摂取基準への取組みについてですが、学校給食は、栄養バランスの取れた豊かな食事を提供することにより、成長期にある児童生徒の健康の増進、体位の向上を図ることはもちろんのこと、食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材となるものでもあります。

文部科学省が示す「学校給食実施基準」については、日本人の食事摂取基準を参考に、昼食である学校給食において摂取する望ましい栄養量を算出したもので、児童生徒の個々の健康状態や生活活動並びに地域の実情等がありますが、配慮すべき数値となっております。

区分されている栄養成分は、エネルギー、たんぱく質、食塩相当量など12種類あり、小学校は2年齢ごとに基準値が示されています。

本村の学校給食では、「学校給食実施基準」を踏まえ、献立の作成にあたっては、嗜好の偏りをなくすとともに、多様な食品を適切に組み合わせ、安全でおいしい給食となるように努めておりますが、令和元年度の決算審査意見書において、塩分摂取量が高く、減塩に努めることが重要であると留意事項に記載されました。

指摘を受けてからは、減塩を意識して、みそ汁のみそを減量して具沢山にする。

スパゲティをゆでるときに塩を入れない。

きゅうりの板ずりをやめる。

福神漬をやめる。

ドレッシングの量を調整するなど、栄養教諭の指示により、調理員も減塩の意識を共有して進めてきております。

このように、塩分を減らすための工夫を行ってきているのですが、今年度もまだ基準を超えている状況であります。

保育園の給食がおおむね基準内ですので、引き続き塩分を減らした給食の提供のため、食材の持ち味を生かして、薄味での調理、酸味で味にメリハリ、香りや刺激を感じて風味豊かにするなど、さらに工夫をしてまいります。

併せて、家庭での減塩を含めた食生活の見直しも重要ですので、給食だよりの中にこれからの学校給食の取組みと理解・協力を伝えてまいります。

○議長（中井康雄君） 1番木村議員。

○1番（木村優子君） ご答弁いただきました。

再質問については、1点目の保育園や学校給食における食物アレルギーの対応と、2点目、給食における塩分接種基準の取組みについて、分けて1点ずつご質問いたしますので、それぞれでご答弁いただきたいと思います。

まず1点目です。

保育園については、答弁書から、今年の5月以降、献立等を工夫してアレルゲン食材を使用せず、同じ給食を食べられる日を増やすなど対応されているということがわかりました。

確認なのですが、学校給食においても、卵アレルギー2名については除去できるメニューは各クラスで教諭が除去を行い、それ以外のときは代替食を持参するということになっておりますけれども、保育園のように、なるべくそのアレルゲンの食材を使用しないような献立づくりの取組みも同時にされているという理解でよろしいか、確認します。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 学校給食においても、そのような形でアレルギーの子がいますので、そういう対応を考慮して給食をつくってきております。

○議長（中井康雄君） 1番木村議員。

○1番（木村優子君） アレルギー食の対応については、答弁書にもありますように、村の調理場の設備や限られた調理員の人数の中で、模索しながら取組んでいただいているということですので、今後もアレルギーを持つお子さんの保護者の方と意見交換や情報共有の機会をなるべく取っていただいて、継続して取組んでいただきたいと思います。

北海道の千歳市では、原因食材を極力使わないなかよし給食、大阪箕面市の特定原材料給食調理で利用しない取組みなど、先進の自治体などの事例も参考にして、継続的に取組んでいただければなと思います。

また、現在今、特に保育園ですけれども、献立を工夫して、今いろいろ移行している状況だと思います。

提供してみて、例えば、どういう感想を保護者の方が持っているのか。

お子さんの意見ですとか、そういったものも、今ちょっとコロナの関係でなかなか難しいとは思いますが、試食なども通じて、給食の試食、献立に対するご意見も、アレルギーを持つお子さんの保護者の方だけではなくて、ほかの保護者の方からのご理解いただけるよう、そして広く意見を聞く機会を設けるなどしていただくことができればと思います。

ただ、答弁書にあります保育園の無償化に伴い、副食費をいただかないこと、お子さんの命を守るという観点から、一部の保護者の方に副食を用意する手間や経済的な負担を感じさせる部分があるということについてですけれども、私個人としては、やはり村として何かしら対応をしていただけないかと考えているところです。

アレルギーを持つお子さんの保護者の負担というのは、副食費やお弁当を持参するための準備の手間というだけではありません。

ご承知だとは思いますが、これも保育園だけではなく学校給食も含めてなのですが、アレルギーをお持ちのお子さんのご家庭では、日々のお食事の中の準備の中で、アレルギー対応の食事を、毎日仕事や家事をこなしながら用意されているということ

ですとか、手に入るアレルゲンフリーの食材は、割とみんな割高であるということですね。

あとは、アレルギーの食材の解除に向けて、やはり少しずつお子さんと慣らしていった取り組みをされているという、そういう努力のところと、医療機関の受診の回数が多いというところも、やはり大変かなと思われまます。

また、保育園に提出する書類についても、医師の指示書などが数種類ありまして、その指示書などを出していただく際には、保険の適用外というふうになっています。

例えば、医師による指示書が、ちょっと医療機関の方に電話して調べたところ、2,000円程度、あとは、そのアレルギーのお持ちのお子さんは、必ずエピペンと言って、アナフィラキシーが起こったときに対応していただけるように、保育園や教育機関に投薬医療書というのを提出するということになっていますけれども、それでも大体2,000円1回程度。

あとは、アレルギーの段階に応じて、この食物は食べれるよということになったときには、解除届けというのを提出しなければいけません。

そういったことで、やはり2,000円かかっています。

最低でも年1回、大体6,000円程度が、そのご家庭には負担になっています。

この点、普通は回数によって個人差も、アレルギーの状況によってあるのですが、それが3年間続けば、保育園だけで1万8,000円と。

これは本当に単純計算なのですが、そういう額を、余分にと言ったらちょっと言い方語弊ありますけれども、保護者の方、負担をすでにされているという状況です。

書類を提出するために、保険適用外の経費を村が負担するということになると、アレルギーの方だけではなくて、いろんな持病を持たれている方も同様に、そういった書類は教育機関や必要などには提出しているはずですので、その部分を負担するというのは、ちょっと村としても難しいのかなとは思っているのですが、できれば、それが難しいなら、やっぱり副食費の部分だけでも、補助の対応ができないかというのが、個人的な考えなのですね。

金銭的負担の全てに行政が対応することは現実に難しいというのも十分理解はできるのですが、村民に優しい村として、誰も取り残さない社会のシステムづくりの一環としても、アレルギーや持病を持つお子さんの保護者の方たちの経済的負担を軽減するための方策を、再度検討することができないかということで、もう一度ご質問します。

○議長（中井康雄君） 高桑福祉課長。

○福祉課長（高桑佐登美君） 私の方から、少し前段の方でお話があったところについて、お答えをしたいと思います。

少し試食会なども通じて、皆さんの意見を、保護者の方のご意見をというようなところがありました。

ちょっと記憶があれなのですが、昔は参観日みたいなことを利用して、給食の試食をいただいていた経過はあったかと思っておりますけれども、今、コロナ禍ということもありまして、難しいかと思いますが、園内で何かできることがあれば、この後、考えていきたいなというふうに思います。

あと、アレルギーをお持ちのお子さん、5月以降、給食の体制、少し変えてきておりますけれども、子どもさんの感想を、村の栄養士と保育士の方が聞いてきておりました。

あと、保護者の方とお話したときも、保護者の方からもお子さんの反応を伺いました。

今までは、全食お弁当を持参いただいていた方だったので、ものすごくおいしかった、

みんなと一緒に食べてものすごくおいしかったということを、兄弟の方にまずご報告をして、保護者の方にもお話したということ伺いました。

それを私たちも含めて聞きまして、これは本当にもう一生懸命、しっかりみんなで食べられる給食を準備していく。

できるだけお母さん、お父さんの負担を少なくするために、できる範囲で除去をして提供するような体制をつくるということで、今本当に、答弁書にもありましたように、模索している途中です。

現実、今、お二人の方には、提供できない日もありますので、代替食、持ってきていただいているのですけれども、それ以外の、今は3名の方については、ほぼ代替食持たないで来ていただいているような状況にもなっておりますので、副食費の負担というところはありましたけれども、保育園としては、できる限りみんなで食べられる日をつくる。

あるいは、負担のない給食メニューを考えるというところで、考えていきたいなというふうに相談をしているところでございます。

○議長（中井康雄君） 質疑の途中でございますけれども、12時になりましたので、お昼休みとさせていただきますと思います。

休憩をしたいと思います。

午後1時まで休憩いたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 0時00分

再開 午後 1時00分

○議長（中井康雄君） それでは、皆さんお揃いになりましたので、休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど、午前中、答弁がもう少しあったそうですので、答弁の方をよろしく願いいたします。

森田村長。

○村長（森田匡彦君） 木村議員からの再質問で、副食費の補助の検討をということで、もう一度ご質問いただいたかと思えます。

これは副食費の補助、これ自体を予算的にできないのかというところではないです。

予算的にはそんなに大きな額はかからないというふうに考えております。

ただ、最初の答弁でも申し上げたとおり、結果的に副食費いただかないということで無料化された。

ただ、アレルギーを持たれている保護者については、用意しなければいけないから、それが結果として負担になっているということでもあります。

実は、この事業は、この事業だけで完結するというのであれば、対応することは可能なかなというふうに思うのですけれども、実は、世の中の担う福祉施策というのは、本当にそういった事情というのは正直言ってたくさんあるのですよね。

すべての住民に対して、本当にすべての平等を担保する施策というのは、なかなかこれは正直言うと難しい。

それは最初の答弁でも答えさせていただいたところであります。

これが、この質問が、例えば、副食費を負担することによって、そのご家庭が大変な生

活に困窮をきたす、そういうようなことであれば、しっかり検討しなければいけない。

そういった状況もこれから出てくるかもしれないので、そういった面で、そういった状況も踏まえながら、いろいろな検討はしなければいけないのかなというふうに考えるところではあるのですけれども、やはり、では今の中札内村のいろんな子育て支援の施策は、保護者、子育て世帯に優しくないのかということ、そういった面では、うちの村が劣っているとは正直、至らないところは多々あるかと思うのですけれども、それほどほかの自治体に比べて劣っているところはないのではないかなというふうに思います。

要するに、平等を担保するために手を差し伸べる。

平等を担保するために手を差し伸べるということを始めると、本当にこれ、もぐらたたきみたいな感じで、もう至るところにそういったことがあるのではないかなというふうに思うのですよね。

なので、これは当事者の方からすると、なかなか承服しかねる部分もあろうかと思うのですけれども、本当に今、保育料も無償化されていますし、医療費も無料化されている。

高校生になったら高校生の補助というの、就学支援というの、設けさせていただきました。

あくまでもやはり、中札内村行政として考えるべきは、全体を通してどういった支援が本当に必要なのか。

確かに困っている人に手を差し伸べることは必要なのだけれども、そしたら本当に困っている人に手を差し伸べる手なのかというのはやっぱり、いろいろ検証していかなければ、限られた財源の中で、福祉施策というのはやっぱり展開していけないというふうに考えるところでは。

この事業自体は大きな予算かかるものではありませんけれども、やはり全体を通した中で、本当に必要な事業なのか。

これは、繰り返しになって申しわけないです。

本当に当事者の方にとってみたら不公平に感じる部分もあるのかもしれませんが、そういったことを考え出すと、では逆に、副食費全員からもらった方が平等なのではないかという考えにもなりますし、非常に難しい面があります。

いわゆる平等を担保するというのは。

そういった面で、それぞれの折り合いする中で、どこまで折り合って一緒に、子どもにとっていい福祉施策を、保育を提供していけるのか、子育て支援施策を提供していけるのかというのは、やはりもう少し広い視野で考えていかなければいけないのではないかなというふうに思っております、今現在は、なかなかその副食費の補助というのは難しいなというのが正直なところでは。

ただ、これは難しいから、ではそれで思考をストップするというのではなくて、これからの本当に必要ないのか。

そういった検討はこれからも続けていきたいなというふうに考えております。

○議長（中井康雄君） 1番木村議員。

○1番（木村優子君） わかりました。

村長のお考えとか、福祉サービスの在り方、私もいろいろ勉強しなければいけないところあると思いますし、考え方についてはわかりました。

ただ、できれば、先ほどおっしゃっていただいたように、検討は継続して続けていただきたいということと、なるべく、負担に感じておられる、不満を持っておられる保護者の方いらっしゃるといのも事実ですので、なるべくきめ細やかな対応、お子さんの意見を

聞くとか、そういった部分ではきちんと対応をこれからも続けていっていただきたいと思
います。

では次に、給食センターの改修についてなのですが、答弁の中では、調理ライン
を設けることは全面改修併せて増築が必要なため困難で、当面は除去と代替食の持参で対
応するというふうにお答えいただいております。

そこで、供用から27年程度、今経っている給食センターなのですが、現時点、
その改修計画自体は立てておられるのか。

それについてお伺いいたします。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

少しお待ちください。

ちょっと休憩いたします。

○議長（中井康雄君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 調理場の関係ですけれども、必要な調理器具等の備品購入、交
換等の修繕は行っていかなければならない考えでおります。

ただし、今回のような安全な給食を提供するため、アレルギーが入ってこないようなラ
インをつくるような大規模な改修については、今のところ考えておりません。

○議長（中井康雄君） 1番木村議員。

○1番（木村優子君） わかりました。

学校給食センターの整備については、各自治体の財政状況や人口減少の進展を背景に、
どの自治体でも大きな課題となっております。施設整備にあたっては、中長期的に立っ
た検討や分野横断的な検討が求められていると思っております。

現在、給食センターの在り方については、将来的な施設設備の遊休化が懸念されたりと
かで、単体で学校給食センターという運営ではなくて、新しい機能を追加するというこ
とで再整備をしている自治体も今は増えております。

例えば、岩手県の遠野市では、高齢者向けの配食サービスとか総合食育推進、防災と言
った総合食育センターの整備というのをしております。

そのほかにも、自治体によっては、幼稚園、保育園、認定こども園、放課後児童クラブ
への給食提供や災害時の炊き出しなども含め、災害の拠点としての機能も踏まえて再整備
するという形で検討を行っている自治体も今は増えております。

また、整備事業の検討においては、調査や住民懇談会なども含めて、大体5年から10
年ぐらいの年数をかけて計画をされておまして、民間活力を利用するPFI事業方式と
いうのも積極的に採用されているという自治体も増えております。

それが八雲村の学校給食センター、人口7,000人程度の村なのですが、PFI
方式で学校給食センターを新たに整備したという例でございます。

もし整備事業の財源がなくて、維持が困難な場合は、給食ではなくて、例えば、民間に
配食を委託するスクールランチというのが、北海道では様似町が初めて実施しまして、コ
ープさっぽろが受託をしているものなのですが、そういった給食委託サービスの利用と
いうのも、今後考えていく検討の材料かなと思うのですが、村として、次回施設を
改修する検討の際に、いろいろ設備器具を新調したり入れ替えてという方法もあるのだ
すけれども、改修後、40年から50年、また続けて使用していく施設を、食物アレルギー
の対応等ができるものにするのか、またはしないものにするかどうかというのは、今から
年数がかかるものですから、当面のアレルギーの対応と並行しながら検討する必要がある

のではないかとこのように考えております。

できれば、学識経験者、小中学校の校長先生方、保育園長、PTAの方々、あとは学校給食センターの栄養教諭の方などが集まって、アレルギー対応とか食育等も含めて、今後村で給食提供について考えていく給食検討委員会のようなものを設置すること。

あとは、給食についての住民の人の意見を聞く懇談会など、今、座談会など増えておりますけれども、そういった形で住民の方から意見を聞けるような機会を設けていただいて、今後検討するということはできないかというふうに個人的には思うのですけれども、それについての考えをお伺いします。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 現在、給食に関する意見等を聞く場として、ご存知だと思いますけれども、学校給食共同調理場運営委員会がございます。

その中には、当然、教育委員会職員入りますし、保護者、PTAの方も入っていただきます。学校長も入っていただきます。

回数は年間そんなに多くないのですが、その中で、村の給食についての意見等を出してもらっています。

そのほか、栄養教諭と各学校3校の養護職員、この4名による担当者会議も開催して、より具体的に給食関係の打ち合わせをしている状況です。

前段、木村議員からお話あった今後の考え方ですけども、今現在、中札内村の給食センターは二十何年経って古くなってきて、どちらかと言えば、今、長寿命化という形で、現在の施設の中で機能をどうする、良くしていくかという考えを持っています。

ただ、今後、人口が少なくなってくる要因もある。

そのほか、おっしゃったとおり、災害等の併せて、給食のほかに何か併せてつくるものが出てくるのか。

そういうものが出てくるようであれば、考える余地は出てくると思いますけれども、今のところ、今後8年ぐらいの計画では、今の施設を使っていこうという考えを持ってございます。

○議長（中井康雄君） 1番木村議員。

○1番（木村優子君） わかりました。

第7期まちづくり計画の策定も進んでおりますので、今のご答弁だと、それ以降のまちづくりの計画の中に検討材料として入るのかなという気はするのですが、できれば早い段階でどうしていくかというのは、検討を着手していただきたいと思います。

アレルギーの対応についてはこれで終わります。

次に、2点目です。

学校給食での減塩の取組みについてですけれども、減塩を意識しての調理の工夫がなされているということが答弁書からわかりました。

また、学校給食だけで取組むのではなく、家庭での食生活の見直しが必要だということで、給食だよりの啓発等も行っていくということでした。

それに関しては、全くその通りだなと思いますので、今後も継続して工夫の取組みをお願いしたいと思っております。

最後に、先日の決算審議の際に、学校給食の賄い材料費と給食費の徴収額の差が110万円あって、こちらは地場産のものを提供するふるさと給食の材料代として出されていて、大体150万円ぐらいが村費で出ているというお話あったと思うのですが、あと、幕別町などの自治体が一定程度負担している流れが今はあって、多少、賄い材料費が

上ったとして、村で値上げはしないというなお話でございました。

今回、質問した安全・安心の給食の提供の取組みについては、減塩のために工夫することとか、あと、なるべくアレルギーを使用しない献立づくりに関しても、現場での対応というのにはやはり限界があると思いますので、やっぱりそれに対応する食材や、加工品ですとか、調味料ですとか、そういうものを購入するとなると、やはり通常よりも割高のもの可能性が高いというか、割高になると思うのですよね。

そういうものを、やはり使っても取組んでいくということを考えていただいて、やっぱり現状の体制で難しい場合は、例えば、栄養士や調理員の方を増員するという必要性も今後出てくるかもしれませんし、そうするとまた予算の増額の可能性も出てくるのですが、アレルギー食の対応については、給食のみだけではなくて、災害備蓄品とかでも用意しているという、やはり自治体もありますので、そういったこともやはり加味をさせていただいて、村がアレルギー対応をきちんとしていく。

もしくは減塩にちゃんと取組むという方向性を明らかにしていただいて、それに見合うやはり予算を確保していただくことが必要かと思っております。

なので、その辺について、最後に村長にお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（中井康雄君） 森田村長。

○村長（森田匡彦君） 今すぐ、ちょっと明確な回答できないので申しわけありません。

ちょっと給食費で村費で負担して、それは中札内の食材を味わってもらおうという意味でやっているの、ちょっと、アレルギーの議論とまた別のことになるのかなというふうに思います。

ただちょっと、どの程度それをやるのに予算がかかるのか。

その予算を掛ける効果としてはどういったものかというのをいろいろ検証してみなければいけないなというふうに思います。

あと、木村議員の一番最初の質問にあったとおり、これから恐らくアレルギーを抱えていらっしゃるお子さんというのは増えていく傾向にあるのかなというふうに思いますし、そういった中でいくと、本当にアレルギー対応というのは、これから本当に重要になる問題なのかなというふうにも感じている部分あります。

そういった面では、ちょっといろいろ研究させていただきながら、何が必要なのか、どうすれば子どもたちの食育、食を通した学びを支えられるのかというのは、しっかり考えていきたいなというふうに思っております。

場合によっては、もしかすると、科学の進歩でアレルギーそのものを治療することができるよう技術も出てくるかもしれませんし、いろんな情報収集しながら、村として何ができるかは検討してまいりたいというふうに思います。

ちょっとはっきりしない答えで申しわけないのですが。

関心は非常にあります。

○議長（中井康雄君） 教育長からもちょっと答弁ございます。

○教育長（上田禎子君） 所管の担当なので、一言お話させてください。

現在、小学校の給食費237円、中学校283円です。

本当に他町村から見ると、真ん中ぐらいの状況でありまして、本当に給食センターの方も苦労しながら何とかというところで、持ち出しを少しでも少なくするような形でやっております。

減塩につきましては、十勝管内他町村ほとんどが塩分は超えておる状況なのですね。

それは先ほどもお話しましたように、家庭での塩分が非常に高いのですね。

それで、給食の方でも、先ほどのような工夫をしているのですけれども、そうすると、わかめご飯のときだったら、例えば、残食少ないけど白米になったらドンと残食増えるとか、やはり家庭と給食センター、給食センターの方では、法に則って、基準に近づけるように努力はしているのですけれども、そうすると残食が増えるというのが、うちもそうですし、どこの町村でも同じ課題であります。

しかしながら、基準がありますので、それは何とかもう少し工夫して、先ほど、木村議員がおっしゃったように、減塩調味料ですとか、その他の食材、冷凍ものなんかは給食用につくっていて、もうそこはなかなか手が出せないようなところありますので、何とか給食センターである程度味付け等できるものについては、ちょっと高くなりますけれども、減塩調味料というものも検討していきたいというふうに思っています。

併せて、ラーメン、うどんの汁物はどうしても塩分が高くなってしまいますので、飲み干さない指導というの、今もやってもらっているのですけれども、学校の方に再度、給食のときにそういう汁物出たときには、そういった指導をしてもらおうような働きかけも併せてしていきたいというふうに思っています。

来年度の予算のときには、他町村の状況もありますので、一人当たり幾らというようなことも検討していきたいというふうに思っております。

○議長（中井康雄君） 1番木村議員。

○1番（木村優子君） わかりました。

現場の方がいろいろ苦勞して対応されているのはアレルギーに関しても減塩についても同じで、それは私も理解していますし、もちろん保護者の方もその部分はきちんと理解はされているので、なかなか大変だとは思いますが、継続して取組んでいただければと思います。

以上で私の一般質問は終わらせていただきます。

それでは、次に、6番船田議員。

○6番（船田幸一君） 新庁舎周辺の公衆電話ボックスの設置についてということで、ご質問をさせていただきます。

防災拠点として機能を有する新庁舎が完成し、機構組織が移転して3カ月が経過しました。

この間の村民利用者の利便性への評価はいたって良好のようであります。

この間、一人の村民として、視点を変えて新庁舎の周囲を見渡したとき、違和感を覚えました。

なぜならそれは、周辺のどこを見ても電話ボックスが見当たらないことでした。

そこで、村民にとりまして、携帯電話が必需品となった昨今において、新庁舎の側に公衆電話ボックスは必要ないと判断していたのか、景観を損ねるのか、あるいは、除雪時の障害物となるのか、設置についての考えや設置の見通しについて、お伺いをいたします。

現在、旧庁舎前の大通歩道上には、公衆電話ボックスが設置されていますが、新庁舎前には無いようです。

東1条道路歩道上、または敷地内への設置について、検討されていますか。

本村には設置基準がありますか。

総務省通達に沿って設置箇所の見直し等がされていますか、お伺いいたします。

さらに、東1条道路は村民の生活道路であり、児童、生徒の通学路でもありますので、防災・防犯上及び高齢者などの弱者救済の観点からも早急に設置願いたく、お伺いをいたします。

またさらに関連して、児童、生徒への携帯電話の普及、所持状況について、お伺いをいたします。

○議長（中井康雄君） 答弁願います。

森田村長。

○村長（森田匡彦君） 新庁舎周辺の公衆電話ボックスの設置についてであります。

本村に設置基準はありませんが、総務省では、「市街地においては、概ね500メートル四方に1台」との設置基準があります。

現在、旧役場庁舎前の国道に国が設置した公衆電話ボックスがあり、新庁舎周辺は基準距離内となることから、移動や新設は難しいというふうに判断をしております。

また、現在、国は設置基準を「1キロメートル四方に1台」に緩和することを検討しており、公衆電話ボックスの設置は最低限の通信手段として全く無くすことはないまでも減少する方向にはあります。

児童、生徒の防災・防犯上の観点では、学校側で危機的な状況等に遭った際は、公共施設等の「子ども110番の家」に避難する指導を行っており、東1条の通学路には、役場、村民体育館、郵便局、中札内小学校や中学校の近隣には文化創造センターがあり、対策を講じているところであります。

さらに、本村の児童及び生徒の携帯電話普及、所持状況について、小学生におけるスマートフォン等の所持状況は把握しておりませんが、中学生においては、本年5月の携帯電話所持調査で、3学年109名中95名が所持しており、87.2%の携帯電話普及状況となっております。

なお、児童及び生徒のスマートフォン等の学校への持込みについては、北海道教育庁通知により、教育活動に直接必要のない物であることから、原則持ち込みは禁止となっております。

昨今の携帯電話の普及状況を踏まえますと、村民の通信手段は概ね確保されている状況と判断しており、所有していない方への対応としては、村民体育館、文化創造センターなどの公共施設においてピンク電話を設置しております。

現在の通信手段の整備状況や安全対策の取組状況から公衆電話ボックスを増設する必要性は低いと判断しており、新庁舎周辺の公衆電話ボックス設置については、現在考えていない現状にあります。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） どうもありがとうございます。

若干、質問をさせていただきたいと思うのですが、その前に、村長から総務省の通達等についての概略説明がありました。

私の方で調べた関係で申し上げます。

2020年3月末時点における日本国内の公衆電話総数は15万1,313台と。

これの前回の年、私は定かではありませんけれども、前年15万5,214台から3,401台、つまり2.5%の減少があったそうです。

これは、NTTが設置する公衆電話は、発信規制や接続規制が行われた際にも、優先して通話が行える優先電話と同様の扱いを受けているためであります。

2020年8月28日に総務省が発表した情報通信白書から確認ができます。

電気通信事業法施行規則によれば、公衆電話は社会生活上の安全及び戸外での最低限の通信手段を確保する観点から、市街地では500メートル四方に1台、つまり国勢調査結果による人口集中地区、つまり何を言わんとしているかと言いますと、これは大都市、大

きな都市を中心とした基準であります。

それ以外は1キロメートル四方ごとに1台は設置することが求められているとあります。

公衆電話台数が減少している状況については、総務省は、高齢者の利用度が高い、緊急時において必要となるとの理由から、減少傾向は避けられないけれども、最低限必要数は維持されることが確約されていると説明がなされています。

2021年4月26日のNHKニュースでは、国の設置基準緩和で、台数が、今後約4分の1に減る見込みだと報じておりました。

災害時の通話手段確保のため、避難所などに事前に配備する災害時用公衆電話の普及を進める方針としていました。

そういう報道がなされていました。

そして、国の中で、有識者検討会議で、本年の6月末をもって、国は指針を示す、国に対して助言をし、指針を示す段取りになっておりましたけれども、このコロナ禍、あるいは、電話各社の携帯電話の料金が高いなど、社会情勢の変化に基づいて、いまだかつて答申はされていません。

そういった中で、大都市絡みの設置基準と、各ローカルな地方都市、あるいは、地方の市町村において、この設置基準が本来あるべき姿なのかどうかという部分を、やはりいろいろと疑念を持たざるを得ない。

そういうようなところにあると思われまして。

よって、私の方で質問、若干させていただきますけれども、本村において、役場庁舎がこちらの方に、新庁舎に移転したことによって、あの大通り、あの商店街の人通りの流れがどうなったのか。

どのように把握されているのか。

それから、この東1条通りについて、通学路でもあります。

そういった中で、人の流れはどうなったのか。

まず第1点は、人の流れ、人の集中度についてご質問をさせていただきます。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 船田議員の質問にお答えしたいと思いますが、人の流れにつきましては、所管している私どもの方については、ちょっと把握していないというような状況であります。

庁舎がこちらに移ってというようなことも含めて、把握していないという状況でございます。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） 私は、この答弁書で、新庁舎周辺への公衆電話ボックスの設置はなかなか難しいというふうな結論がありきのご答弁をいただきましたので、人の流れはまずどうなのか。

その上で判断をされて議論をした上で、答えを導いていくのかどうかということ、質問させていただきました。

それで、次は、公衆電話ボックスの維持費ですね。

これについては、中札内村に負担はありますか。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 公衆電話ボックスの自治体負担ということでございますけれども、公衆電話、中札内4台ございます。

こちらの方につきましては、負担はございません。

国で付けている部分もありますけども、当村においては負担はございません。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） 何点か質問後に、改めて総体的に質問させていただきます。

お答えいただきたい部分は、道道中札内停車場線の、以前、公衆電話ボックスがございました。

これがある事情によって撤去されました。

この経過についてご存知であれば、報告願いたいと思います。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 誠に申しわけございません。

そちらの部分については把握してございません。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） それでは、もう1点お伺いします。

高齢者、特に私たちも高齢化社会ということで、段々年を取ってまいります。

そういったときに、やはり携帯電話がなかなか使いづらい、スマホが使いづらいという方々がどんどん増えています。

なおかつ、今もらくらくホンを使っている方も十分に使いこなせていない状況にあります。

そしてまた、地元の商店街の方からお話を聞きましたところ、旧役場前の電話ボックスを結構利用しているのですよと。

ところが、最近、電話が故障していて、掃除している人は見かけるのだけど、みんな電話ボックスから出てくるのだよということであって、その情報がありましたので、ある時期にそのことについて、では、電話ボックスどうしたらいいのかなという、そういう方々と相談した結果、役場の前にどうしてないのだろうねと、新しい庁舎の前に。

そういうような話がありましたので、この質問をさせてもらった経緯があるわけです。

役場前ということは、多くの人が集まる場所ということになりますね。

そうなりますと、いろんな方々が、電話忘れてきた人がいれば、何かの用事で携帯電話使えなくて公衆電話に駆け込むといったケースも散見されていたようであります。

もう1点、こんなことが社会現象として語られたときがあったと思いますけれども、公衆電話が犯罪の防止に役立っていると。

それはどういうことかといいますと、子どもたちや不審者等が何かあったときに、公衆電話にかけ込む、このことによって、公衆電話に犯罪者、そういう危害を加える方かどうなのかちょっとわかりませんが、入りづらい。

それから、中に入った人は、押さえて人が入れないようにできる。

そして、周りの方々から監視されているものですから、犯罪の温床にはならないのですね。

そして夜については、電気が点いていますから、夜でも安心して誰でも電話が使えると。

あるいは、そういう状況になっているということが、以前、お話が伝わっていたかと思えます。

そういった中において、僕は残念なことに、人の流れ、そして、中札内村、これも新庁舎が災害の防止拠点だよと、司令塔ですよということでありましたので、役場の前に公衆電話ボックスができるものと、そういうふうに思っていたのですが、これが私だけの考え

方なのかなということで掘り下げてみますと、どうやらそうでもなさそうなのですね。

それで、先ほど申し上げた高齢者の観点、それから、防犯上の観点からして、あと、人通りの流れからしても、この必要性はどうかなのかなということであります。

それで、これは、この答弁書につきましては、各課で相談された上で答弁書ができあがっているものだと私は理解いたします。

改めて確認をさせてもらいます。

教育上の観点から、この公衆電話、通学路に位置する公衆電話の設置について、必要ないと思われていますかどうか、お答えいただきたいのと、もう1点は、社会福祉行政を担う担当部署として、公衆電話の必要性、高齢者にとって必要性がないと判断されているのか。

内部で協議されていると思いますが、再確認の意味でご答弁をいただきたいと思えます。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 教育関係ですけれども、公衆電話の必要より、まず、子どもたち、生徒たちに教えているのは、子ども110番の家、それに駆け込みなさいというふうに教えていますので、公衆電話については必要ないと考えております。

電話の場合は、もし、原則、小中学生は持ち込み禁止にしておりますし、必要であれば子ども110番、そのほか、公共施設の活用というふうになってございます。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） 福祉的な見地からということで、高齢者も含めてということであれば、携帯電話の利用率ということがありますけれども、公共施設、警備員も含めて、在中している施設は現実問題ありますので、そういったところで、駆け込むというか、必要があれば申し出ただけであればそれなりの対応はさせていただくということの方が、逆に公衆電話よりは良いのではないかというふうに感じているところでございます。

基本的にはそういう、通学路と同様の、110番ではないですけど、体育館であるとか役場であるとか、文化創造センターであるとか、そういったところ、警備、平日であれば事務局員おりますので、そういったところへの申し出の方が理にかなっているのではないかなというふうには思っているところでございます。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） 私は必ずしもこうなさいという意味での提案をしているわけはありません。

携帯電話の普及によって、社会生活がかなり変わってきているという部分と、その狭間にいる子どもたちや高齢者にとって、どういう対応が望まれるのかという観点から、議論をしていただきたくてご質問をしているわけでありまして。

そういった中で、何点か気が付いたことを改めて質問させていただきますが、子ども110番ののぼりですね、これについて、村内を車で歩いて、数を数えたり、どこにどうなっているか見てみました。

すると、このとおりこの1点、まちの中のこちら側ですよ、東側についてはかなりきちんとされていると思えます。

ほかの部分では、もうポール自体がなくなっているところ、あるいは、そののぼりがもう機能していない姿形になっている箇所もかなり見受けられます。

これらについて、これあるから、子ども110番の家があるからいいではないかというご答弁でしたけれども、これらについて、今どのような状況になっているのか、把握され

ている状況をご報告いただけますか。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 子ども110番の家ののぼりなのですけども、一冬越すと、雪等で破損等が出てきます。

そういった場合につきましては、しっかりと春先に交換等を行って、見えるような形でこれまでも取り進めてきたところであります。

そういったような中で、しっかりとそういったわかるような形で取り進めていきたいと思いますが、ただ、強い風等があつて破れていたりとか、そういったポールについてはあつたりします。

そういう場合につきましては、通報等を受けた場合にはすぐ取替えるような努力に努めているところでございます。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） 今、ご質問によって、多くの方も今の現状がどうなっているのかということがご理解できたと思います。

そういった中で、やはり中札内村において、役場新庁舎の前に公衆電話ボックスが必要ないと、全体の皆さんが判断されているのであれば、またそれも一つの考え方であると思いますし、また、そうでなくて、もうちょっとまだ先に議論を先延ばしして、議論が出ている状況があつて、また社会情勢が変遷に伴って、どういう電話の在り方がいいのかという議論のできる時代が来たら、また議論をさせてもらいたいと思います。

そういうことで、この公衆電話ボックスについての質問をさせてもらいましたけれども、ただ、NTTとの交渉状況等についてはどのようになっているのか。

全く交渉もしていない。あるいは、交渉してみたけれども、窓口でお引き取り願ひませんかと言われましたとか、そういうような状況になっているのかどうか含めて、経過等を含めてお話いただければと思います。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 公衆電話の設置につきましては、新たに設置するということでは確認をしておりませんので、しておりません。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） 私これで質問は止めることといたしますけれども、ピンク電話に関して申し上げれば、ピンク電話というのは、中に設置されているものですね。

それで、なかなか利用者でなければ、ピンク電話は利用なかなかできないものですね。

これは実態としてそうなっていると私は理解していますけれども、それともう一つは、全体的に見て、公共施設に電話等、常に開放していますよ、あるいは、土日祝祭日でもそれなりに関係機関の窓口は開いていますよと。

だから、何かあつたときには、ぜひとも駆け込んでくださいと。

それでかなりの部分が、防犯上の観点からも、子どもたちの生活安全についても配慮できていると、概ねできているというようなご回答だったと思います。

ただ、先ほど申し上げましたように、社会通念上の観点からして、はたしてどうなのか。

そういう部分で、今後とも議論をしていただきたいと。

内部でも議論をもっともつとしていただいた上で、今後の在り方について、ご提案をしていただければと思いますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

○議長（中井康雄君） 森田村長。

○村長（森田匡彦君） 最後のまとめということで、ちょっと私の方からも答弁させていただきます。

船田議員からのご質問、本当に中札内村の防犯、地域安全をどう確保するのかということでのご心配いただいていた提案だったなというふうに考えております。

本当にそういった面では、子ども110番の家、旗立っております。

そういったところで、その旗に不備が生じている部分も見受けられるということのお話ですね。

そういった面で、しっかり我々も子ども110番の家の設置すること。

また、その旗を立てることを目的とするのではなくて、その子ども110番の家を本当にしっかり使っていただいているのだよということをしっかり広報するということ。

そういったことについて、しっかり取組んでまいりたいということ。

あと、村内全体の防犯上の観点から言いますと、これまで役場庁舎がなかったときには、だだっ広い空き地で、防犯上あまり良くなかったところが、今回、電話ボックスは国道にそのまま置かせていただいて、役場庁舎ができることで、実は防犯上の観点からいくと、管理人が常にいる、そういった施設があるものですから、そういった面で村全体としては地域安全力は向上しているのかなというふうに考えておりますので、そういった面では、いろいろな目をこれから見据えながら、しっかり防犯上で機能させている部分をちゃんと機能させるような。

それと、村民への広報という面でもしっかり努めながら、地域の安全については、これからも向上に向けて、維持に向けて努力してまいりたいというふうに考えております。

○議長（中井康雄君） 6番船田議員。

○6番（船田幸一君） どうもありがとうございます。

最後に、旧庁舎、役場前にある電話ボックスの在り方についても、ご検討をしていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○議長（中井康雄君） ご意見としてお伺いしたいと思います。

それでは、休憩をしたいと思います。

午後2時5分まで休憩させていただきます。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時50分

再開 午後 2時04分

○議長（中井康雄君） 皆さんお揃いになりましたので、休憩前に引き続き会議を開きたいと思っております。

次に、7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） それでは、最後の一般質問をさせていただきます。

質問項目といたしましては、今後の配偶者対策への取組みについて、お伺いいたします。

中札内村農業の生産高も堅調に推移し、それに伴い農業後継者も順調に戻れているように思われます。

しかし、後継者がいなく、今後農業経営を断念される方々もおられることから、農家戸数の減少は避けられないのが現状です。

一方で、農業を継承され後継者として頑張っている青年も多くみられますが、近年では晩

婚化・未婚化の影響もあるのか、配偶者に巡り合えていない青年も見受けられます。

これは農業青年だけではなく、商工業者、サラリーマンにおいても同様に思われます。

配偶者問題は個々人の考え方もあり難しい面もありますが、少子化・人口減少・行政区・産業衰退につながる大変重要な問題と私は考えております。

村も8月4日に帯広信用金庫と「出会いの場創出の連携に関する協定」を締結され、「おびしんキューピット」の利用促進が期待されますが、村としては利用促進に向けてどのようにかかわるのか。

さらに今後、村独自の配偶者対策に取り組む考えはないのか伺います。

○議長（中井康雄君） 森田村長。

○村長（森田匡彦君） 今後の配偶者対策への取り組みについてということでご質問いただきました。

まず、農業後継者への配偶者対策については、この間、中札内村農業担い手育成センターが中心となり、独自の配偶者対策に取り組んできております。

平成26年度以降、カップリングパーティー方式で、出会いの場づくりと交際のきっかけづくりの場を設けているところであります。

この間、カップリングパーティーでは、毎年、数組のカップルは成立しているものの、結婚までには至っていないのが現状でありました。

飲食の場のみでの交流になってしまっているという反省から、令和元年度からは、パーティー方式を見直して、農業青年との交流だけではなく、収穫体験や枝豆工場見学、農家の奥様との座談会など、村の農業にも関心を持ってもらい、友達関係から交際へとつながるよう内容を見直し取り組みを行ってきているところであります。

友だちとしての出会いの場を次の交流につなげることや、参加される農業青年の結婚観に合ったアフターフォローなどに難しさを感じたところではありますが、新方式では前向きな女性に参加していただきやすい傾向を感じられたことは大きな収穫でありました。

残念ながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止し、今年度についてもコロナ禍の収束は見通せず、交流や体験といった内容での開催は難しいと判断しているところであります。

しかし、女性の方に農業に関心を持ってもらいつつ、農業青年との出会いの場をつくり、交際のきっかけづくりに向けた取り組みは、今後も必要と考えております。

コロナ禍が落ち着いた段階で、改めて令和元年度に実施した内容を基に工夫を凝らしながら、婚活の取り組みを実施したいと考えております。

一方で4月に開催された担い手育成センターの役員会の中では、農業者の委員の方から真に結婚を望む方が、交流会方式にこだわらず婚活ができる環境づくりが必要というご意見もいただいております。

こうした意見を踏まえ、村では、先ほど議員からもお話ありましたとおり、8月4日に中札内村商工会と共同で帯広信用金庫との「中札内村出会いの場創出事業」の連携に関する協定書を締結したところであります。

この事業では、帯広信用金庫の結婚相談所が個人のプライバシーに配慮しつつ、相手の紹介やお見合い、その後の交際フォローまで対応しており、結婚を前提とした交際や入籍につながっている実績があります。

村としては、農業青年に限らず、商工業を含めたあらゆる職種の方にこの事業を利用していただけるよう、今後は積極的なPR活動に努め、結婚したいという前向きな意思のある方が、安心して婚活ができるよう環境づくりに努めてまいりたいというふうに考えておりま

す。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 実は、私、3年ほど前にもこの配偶者対策への取組みについて、一般質問をさせていただいた経過がございます。

担い手育成センターの婚活パーティーを平成26年から実施してきておりますけれども、なかなか結婚までに至らないと、結び付かないという現状をお聞きいたしまして、飲食の場のみでの交流となっているような状況でございましたので、今後、違った形での取組みを模索するべきではないのかというような質問をさせていただきました。

そしてまた、確かこのときにも帯広信用金庫さんの結婚相談事業のおびしんキューピットも始まっておりましたので、そこでの連携を考えてはどうかというような提案もさせていただいたと思っておりますけれども、検討いたしますという答弁だったというふうに記憶をしております。

今年8月4日によりやく連携協定を締結されまして、今後の利用促進を期待するところでございます。

昨年コロナの関係で、担い手育成センターの今まで取組んできた交流やら収穫体験、また、奥様との座談会等も実施できない状況にあるわけでございますけれども、令和元年度から趣向を変えた方式で、前向きな女性に参加をしていただきやすい傾向を感じる事ができ、大きな収穫であったということも言われております。

この前向きな女性についてということで、ちょっとこの辺がもう少し何か具体的にご説明をいただきたいなというふうに思いますのと、また、農業青年の結婚観にあったアフターフォローの難しさを感じたことも、もう少しこの点、具体的にどういったことなのか、もう少しわかりやすく説明をいただきたいというふうに思います。

○議長（中井康雄君） 尾野産業課長。

○産業課長（尾野悟里君） それでは、私の方から、令和元年度に実施しました担い手センターの婚活事業の概要について、説明をさせていただければなというふうに思っておりますが、まず、前向きな女性の方の参加という、答弁書の方でそういう表現になっておりますが、今回、最初は、当初5名の方が参加ということで話がありました。

うち2名の方については札幌の方と。

札幌から中札内に来られるということでしたけれども、なかなかちょっと都合がつかなくて、結果的に札幌の方は当日来れなかったということがございます。

そして、3名は十勝管内の方だったのですが、うち1名が、当日ちょっと仕事が入ったということで、急遽キャンセルになりまして、最終的には2名ということになりました。

しかし、今回、そのプログラムについては、枝豆工場を見学し、その後、農協青年部の方と一緒に枝豆の収穫体験をしたり、農家の若い奥さんの話を実際に聞いたりということで、その後のアンケートについても、非常に有意義な時間だったということで評価をいただいているところです。

また、終了後も、今後も実際に参加された農家の青年方と連絡を取っていければという意向があったということで、非常に農業に対して前向きに、もともとの趣旨が友だちからということですので、本当に農家の若い青年の方と友だちになりたいという意向で参加されていたのかなというふうには思っております。

さらに、2点目のアフターフォローの難しさというところなのですが、どうしてもこれまでの婚活事業というのは、その場その場、いわゆる飲食の場だけの交流になっているというところがあります。

一方で、今回のようなパターンだと、女性の場合は、これまでの飲食の場のようなパーティー方式ですと、参加する女性もその場限り、ちょっとその場限りではない場合もありますけども、どうしても飲食の場中心になってしまうと。

ただ、令和元年度に実施したようなパターンですと、かなり女性の方は前向きに、友だち付き合いから始めたいということで参加されることが多いですので、そういったところも踏まえて、うちの参加される農業青年側の方への、例えば、今後、友だちからやっていくのか。

あるいは、それとも、なかなか友だち付き合いもちょっと難しいと考えられるのか。

あるいは、最初からそのパーティーといいますか、交流会の参加の向き合い方というのも、やはり事前に農業青年の方に伝えていく必要もあるのかなというふうに感じています。

そういったところで、アフターフォローも含めて、ちょっと前回難しさを感じたかなというふうに思っております。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 私、この配偶者対策については、一般質問でもお聞きしたり、また、普段、担い手センターなどのことにつきまして、結構今までも、産業課長からいろいろと協議をさせていただいております。

なかなかこういったパーティーをやっても、本当に飲食の場だけで終わって、半分女性の方も、冷やかしと言ったら申しわけないですけど、そういった飲み食べが目的で来られるような方も中にはおられるのかもしれないけれども、今、令和元年から始めました趣向においては、若干、飲食のみだけではなくて、いろんな対話の場ですとか収穫体験ですとか、そういった違った取組みをすることによって、少し本気度が見えてくるのかなというふうな感じも受けました。

令和元年度については、最終的には女性が2名しか参加できなかったと。

そのとき、こちら側の中札内の男性側は何名ほど参加をされたのかということをお聞きしたいのと、また、今後も開催が可能になった場合、新しい方式で、さらに新方式の内容をもとに工夫を凝らして、また再開していきたいというようなことも書かれておりますけれども、何か前回やったこと以外に、何か違ったいいアイデアというか、そういったものも何かもしあるのであれば、その点についてもちょっとお聞きしたいなというふうに思います。

○議長（中井康雄君） 尾野産業課長。

○産業課長（尾野悟里君） はじめの1点目の男性の参加者ですけども、中札内側からの参加者は4名ということになります。

現在、今コロナ禍の状況で、交流をメインとした婚活事業やれていないのですが、今後に向けては、それぞれ前回、1回目、令和元年度に開催し、それぞれ反省点、先ほどの事前に農業青年へのレクチャーですとか、そういったところも必要だというふうに考えていますし、また、終わった後から、事務局の中で協議をした中では、最初から、例えば、継続して、2回ですとか3回といった形で交流のプログラムを最初からもし組めるのであれば、そういった形で、ただ参加者が2回目はいいよということになれば、また話は別ですけども、継続してちょっと交流できる場を設定するというのも必要ではないかというご意見もいただいておりますので、そういったことを踏まえて、今後、来年度以降、開催する場合は中身を検討していきたいというふうに思っております。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 令和元年度については、比較的男性も女性も参加者が少なかったのかなというふうにお聞きしました。

以前行った婚活パーティーですと、もう少し参加者が多かったのかなというふうにも思っていたのですが、できればもう少し多くの青年、女性が交流できるような場があればよかったなというふうに思います。

今後ぜひいろいろなアイデアを出して、またさらにこういった交流の場、出会いの場の機会を設けていっていただければなというふうに思うところでございます。

先日、新聞記事見ていると、JA帯広川西さんの方でも、おびしんキューピットを活用して、組合員の婚活を支援するというような報道記事が出ておりました。

やはりどこの市町村でも、やはりこういった配偶者問題で悩んでおられるのかなというふうに思うところでございます。

これ配偶者問題は農業者だけではなくて、商工業、サラリーマンの方も共通しているものではないかと思えますけれども、しかし、農業というのはやっぱりなかなか一人でやっていた職業ではないのではないかなというふうに私は思います。

一人でやられている方もおられますけれども、なかなか厳しい面があるというふうに思います。

そんな中で、JA帯広川西の組合長さんも、人生で一番大切なパートナーを求める組合員らの背中を押し、後継者の育成と強い農業づくりを進めたいというようなことも語られておりました。

中札内村も農業が基幹産業でございます。

今後、農家戸数の減少を抑えるためにも、また、農村部の行政活動が衰退しないためにも、やっぱりこの配偶者対策というのは大変重要な問題ではないかなというふうに私も捉えております。

そこで今回、おびしんキューピットの活用方法でございますけれども、積極的なPR活動に努めますとのことでございますけれども、どのように農業、商工業含めたあらゆる職種の方に登録をしてもらえるように進めていくのか。

その辺もう少し具体的な点をお聞きしたいと思えます。

○議長（中井康雄君） 川尻総務課長。

○総務課長（川尻年和君） 宮部議員の質問にお答えしたいと思います。

まず、連携協定につきましては、村広報9月号にも紹介をしてくれているところでございます。

今後につきましては、両村、更別と中札内村、さらには、両商工会ですね、そういった中で、村民、会員、事業所への広報活動を中心に連携して、結婚へとつなげていきたいというような考えではありますけれども、両村で国が進めている結婚新生活支援事業補助金というものがあります。

引っ越しとか家賃とかそういう補助、最大30万円というものでございますけれども、そういったものの活用、さらには、今後、村内の団体等にも連携を行って、そういう出会いから結婚までの構築というか、そういった形で進めてみたいなというふうに思っております。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） わかりましたけれども、主体となるのは広報活動といいましょうか、村の広報等でも載ってございましたけれども、今、おびしんキューピットの方でも、現在390人ほどが登録をされているというような状況でございます。

男性が172人、女性が218人ということで、女性の方が多いのですが、その中で男性会員の方の19%ほどが農業者であるということでもございます。

8月末現在で29組が結婚され、このうち農業者のカップルについては4組の方が結婚されたというような記事も載ってございました。

J A帯広川西さんの方では、この後継者対策専任職員を配置して、広報誌などで事業の周知を図るようでございますけれども、中札内村としても、やっぱり担い手センターの中で、村か農協職員の方あたりが、やっぱりその専任職員を配置して進めていくような考えはないのかどうか。

ただ、なかなか広報だけでこういった協定結びましたので登録しませんかと言ってもなかなか名乗り出てきてくれる方もそんなにはいないのかなというふうに思いますし、多分、各職場やらそういったところで、そういう未婚の方々に対して、いろいろと声掛けはしてくれると思いますけれども、やっぱりそういった専門性を持った人がなかなかいないと、ただどうですかではなかなか集まって来ないというか、難しい面もあるのではないかなというふうに思いますけども。

その辺、担い手センターあたりで、さらに一歩進んだ取組みをするような、専任職員を置くような、置くといいでしょうか、考えたいなものは持っておられませんか。

○議長（中井康雄君） 尾野産業課長。

○産業課長（尾野悟里君） 現状、今回の出会いの場創出事業連携協定を活用したPRについては、担い手センターを、実際今事務局は農協さんの方で事務やっただいていますが、当然、産業課も事務局に参画して、この間事業にかかわってきているという部分もありますので、今後は、センターとして農協青年部の方にも、この信金結婚相談所を活用していただければ、例えば、利用方法の周知ですとかパンフレットですとか、そういったのを配布する機会をどこかでつくっていきなというふうに思っております。

また、これは農協青年部さんとか関係機関との調整も必要な部分ではありますけども、実際に信金の結婚相談所の職員に来ていただいて、制度のPRという機会もつくれば、関係機関の状況が整えば、そういったところもしていきたいというふうに考えておりますし、また、今後、9月に発行される農業委員会広報の方には、ちょっと掲載はなかなか難しかったのですが、来年度の3月に発行される農業委員会の広報等でも掲載して、農業者には伝えられるのかなというふうに考えております。

また、もう1点、担い手センターの事務局体制については、今後の事業の在り方等を考えた上で、今事務局をどうするかというのは一応考えなければならない。

担い手対策もそうですし、婚活事業といいますか、そういった部分も考えていかなければならない時期ですし、全体的な担い手対策というのも、やはり今後少しずつ考えていかなければならない時期にはなってきたのかなというふうに考えておりますので、担い手センターの事務局体制についての在り方については、ちょっと今後検討させていただければなというふうに思っています。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） ぜひ、そういったもう少し踏み込んだ事務局体制といいましょうか、ただ来るのを待っているだけではなくて、やっぱりこちらからも何か、若干おせっかいでのお話をしていくような感じで、もう少し事務局側からのアプローチというものを少し強めていってはどうかというふうに思います。

以前、私3年ほど前に一般質問したときに、村内で25歳から39歳ぐらいの未婚者数は何割ほどになるのかという質問もさせていただきました。

そのとき、村の方で、国勢調査のデータをもとに、平成27年度のデータですけども、未婚率を調べてくれました。

そのときのデータでいきますと、男性が52.3%、女性で36.1%、全体では44.3%との未婚率ということで、自分が想像していた以上にやっぱり晩婚化が進んでいるのか、また、巡り合うチャンスがなかなかないのか、結構未婚率が高いのだなということそのとき感じたところでございます。

皆さん方もご存知の方が多いと思いますけども、清水町さんでもいろいろこの配偶者対策といましょうか、婚活活動について、かなり町を挙げて取組まれているような現状があると思います。

清水町さんでは、役場職員の10名のワーキングチームメンバーと、町民12名の出会いサポーターがタッグを組んで、出会いを求める町の独身男女の背中を後押しする活動をされているということで、結構テレビやら新聞等でも報道されて、見られた方もおるのではないかなというふうに思いますけれども、以前に比べてなかなか縁を取り持てただけのような方が、今現在非常に少ないということで、清水町さんのように、町と住民がタッグを組んで、素敵なおせっかいで男女の出会いをサポートするのも一つかなというふうには思いますけれども、結婚を本気で望む町の独身男性の写真入りの図鑑を掲載したり、また、その図鑑等をいろいろな、信金さんですとか管内の図書館ですとか、いろんなところにその図鑑を配布して、少しでも清水町の男性をPRするような取組みも行われております。

私も、同じような活動をしてくださいということは言いませんけれども、やっぱり村内の中でもいろいろな職場があって、そこで若い方々が働かれています。

まずは村内の中で、もっと交流の場といましょうか、出会いの場を考えてのそういった催しといましょうか、そういったことをできないものなのかなというふうに、以前に申し上げたかもしれませんが、村内の中での取組みも私あっていいのではないかなと。

今、どうしても婚活パーティーですとかそういった交流というのは、多分帯広市かどこかでやられていて、令和元年は村でもやったのかな、かもしれませんが、まず村内の中でも目を向けてもいいのではないかなというふうに思いますけど、その点どのようにお考えになられますか。

○議長（中井康雄君） 山崎副村長。

○副村長（山崎恵司君） 確か3年前のご質問のときも同様にお答えをしたかなって思います。

基本的にやっぱり村内ですできるだけ出会いの場をつくる、でも、婚活をメインとしてということになれば二の足を引くというケースも当然ありますから。

その方々だけではなく、いろんな職種、仕事に就かれている方がある程度一堂に会するような事業を進めていく。

その中から出会いを生まれさせるみたいな。

問題はそういったところからいかに出てきてくれるようにするかという。

そうなってくると、職場であったり、職場でなければ、いろんな組合関係、組合というのは例えば青年部さんだとか青年会だとか、そういった場面でもそういう話ができるような状況をつくるというのが非常に重要なのかなと。

ちょっと一緒に行ってこないかという一つの声掛けでそこに参加する。

それは七夕でも盆踊りでも、それは村が企画しているロッカノヨルとかの実行委員会に

参加してみようとか、そういったところに出て行くことによって出会いの場は広がっていくのだろうと。

ただ、問題はそこに出ていこうという意識を生まれさせるかどうかというところが問題なので、そういったところについては、今回、このおびしんキューピットについても、やっぱり自分が結婚しようと思うところがやっぱり大事なので、そういったところをできるだけ広げていく、周知する中で、そういった出会いの場というのは村内にもあるよねという話もやっぱり広げていかなければならないのかなというふうに思います。

どんな新たな場面設定ではなくても、そういった機会があれば、出てきやすいような体制を整えるというのも一つ、方法なのかなというふうに思うところであります。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） ぜひそういった交流、出会いの場というのも本当に、村内の中の何か考えていただければなというふうに思います。

今こんな時代ですので、なかなかそういった交流の場を持つことはできませんけれども、やっぱりある程度収束してきた段階で、ぜひ考えていただきたい。

農協青年部さんあたりも本当に男性ばかりの集まりでございますし、そこで集まっているいろまたどこか飲み屋さんへ行ったりだとか、女性と巡り合うこともあるわけですが、なかなか村内の中でのそういった場というのは少ないのではないのかなと。

昔のような青年団活動があったときには、もう少しあったと思いますけれども、そういったことがなかなか減ってきているという状況にもあると思います。

ただ、村内同士でもし結婚されたとしても、なかなか人口の増加にはつながらないのですけれども、長い目で見れば、将来お子さんが生まれるですとか、そういったことで若干の人口の増加にはつながっていくと思いますし、村内にも大変すばらしい男性、女性がおられますので、ぜひ前向きに検討をしていただきたいなというふうに思います。

それから、農業も以前は3Kといいましょうか、給料が安いやら、休暇がないですとか、格好が悪いですとか、あとはきつい・汚い・危険などと、3Kというよりも6Kに近かったのかなというふうにも思いますけれども、いろいろ言われていた時代もございました。

しかし今では、農業もそこそこ儲かる産業になってきているのではないかなというふうに思います。

そしてまた、機械化やらICTの発達で労働時間もかなり昔から見たら減少してきていると思います。

そしてまた、子どもさんやら消費者の皆さん方も積極的に受け入れて、かなり昔のイメージと変わってきていると思いますので、その辺、村長も中札内村の基幹産業は農業ですということを言われていると思いますけれども、今後の中札内村の農家戸数の減少ですとか、配偶者問題など、今後の農業推移をどのように捉えられているのか。

もし何かお考えがあれば、お話をいただきたいと思います。

○議長（中井康雄君） 森田村長。

○村長（森田匡彦君） なかなか非常に難しいというか、宮部議員おっしゃるとおり、中札内村の基幹産業農業であることは間違いありませんし、農業の発展なくして中札内村の発展がないというのは全く同じ思いであります。

本当にそういった面で、後継者対策、配偶者対策という面では、非常に価値観が多様化していて、逆に本当に生活が非常に便利になっている。

また、先ほどお話ありましたとおり、機械化されて、非常に農作業が楽になって、結婚

しなくてもやっていけてしまうみたいな、農業が非常に本当に6Kではなく、本当にKがどんどんなくなって、逆にそのことが結婚への意欲を減退させているのかなという気もしております。そういった面で、個人の価値観にどうかかわっていくのかというのは非常に難しい問題だなというふうには思っております。

ただ、我々として、もしできるということであれば、先ほど宮部議員がおっしゃられたとおり、農業のイメージは昔とは全く違うのだということ。

稼げる産業だというお話ありましたけれども、そのあたりの理解ってまだまだ一般の方には浸透していないのではないのかなというのは私も全く同感であります。

非常に、今本当に、農家にお嫁さんに行った方々が、もう毎日朝から晩まで延々と農作業しているみたいな光景はもうほとんどありませんし、本当に非常に幸せな女性が多いなという、私の個人的な主観ですけれども、そう感じておりますので。

そういったことをしっかりPRしていくというのは重要なのではないかなと。

また、農業については、非常に中札内、十勝全体もそうですけれども、非常にこれからもまた発展性がある、本当に将来有望な産業ですし、そういったこともしっかりPRする。

農家の女性ってすごくゆとりがあつていいのだよというところもPRしていく。

そういったことを努めていきたいなというふうに思います。

そういった中で、令和元年に交流会方式にしたというのは、そういった農家の今の本当の実態を知らせるという面ではすごく効果があるのではないかなという、農村女性から実際の体験談を語っていただいて、幸せを肌で実感してもらおうというのはすごくいいのではないかなというふうに思いますので、そういった事業が再開できることになりましたら、一人でも多くの方に参加していただいて、農家のイメージをしっかりと刷新していただくような、そういった取組みを進めていきたいなというふうに思います。

本当に難しい課題なのですが、いろんなアプローチが大切だなというふうに思いますので、知恵を絞って、皆さま方のお知恵もいただきながら、取組んでまいりたいなというふうに考えております。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） ありがとうございます。

個々人の若い方々の考えにもよりますけれども、なかなか、今、先ほど村長おっしゃったように、以外と若い青年自体はあまりあせっていない方もおられるのかなというふうに思います。

かえって親の方が誰かいないとか、いろいろ探しているような方々もおられますけれども、ちょっと非常に難しい面もあるのですけれども、今後、こういったおびしんキューピットさんに登録される方が増えていくことを期待するところでもございますし、ぜひ、担い手センターなのか村の方でも、ただ待っているだけではなくて、少しおせっかいながらも声掛けをするような、そういった体制もぜひ考えていっていただきたいなというふうに思います。

また、先ほども言いましたように、村内の若者の交流、出会いの場、そういったものについても、少し検討されて、村内同士での若者の出会いのきっかけを何とかつくっていただければなというふうにご願いを申し上げます。私の質問を終わらせていただきます。

○議長（中井康雄君） これで一般質問を終わります。

以上をもちまして、本日の日程はすべて終了いたしました。

会議を閉じます。

令和3年9月中札内村議会定例会を閉会いたします。

閉会 午後 2時43分